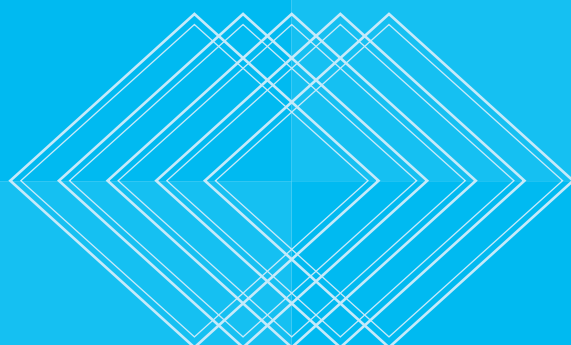


第13回 東北大学全学教育FD

— 報告書 —



令和元年10月



東北大学

東北大学学務審議会
高度教養教育・学生支援機構

第 13 回東北大学全学教育 F D

日 時：平成 31 年 3 月 8 日（金） 13：00～16：00

会 場：川内北キャンパス A 棟 A 200 教室

参加者：平成 31 年度全学教育担当教員（非常勤講師を含む）

テーマ：“グローバルリーダーの育成”

スケジュール：

司会 教育情報・評価改善委員会委員 串本 剛

1. 開会挨拶 13：00
学務審議会委員長 滝澤博胤
2. オリエンテーション 13：05
教育情報・評価改善委員会委員長 笹野泰之
3. 「東北大学におけるグローバル教育」 13：25
東北大学総長特別補佐（国際交流担当） 末松和子
4. 「新渡戸カレッジが目指すもの－北海道大学のグローバル人材育成」 14：00
北海道大学総長補佐（高等教育推進機構） 高橋 彩
- ~~~~ 休 憩 14：35 ~~~~
- 司会 教育情報・評価改善委員会委員長 笹野泰之
5. 「グローバルラーニングセンターにおける
短期海外研修プログラムの展開と学習成果」 14：45
グローバルラーニングセンター准教授 渡部由紀
6. 「国際混住寮ユニバーシティ・ハウスでの
グローバル人材育成の取組み」 15：10
東北大学総長特別補佐（学生支援担当） 菅原俊二
7. 質疑応答 15：35
8. 閉会挨拶 15：55

主催：学務審議会教育情報・評価改善委員会
高度教養教育・学生支援機構

第13回東北大学全学教育FD実施要項

1. 目的

- (1) 東北大学全学教育の基本理念を理解・共有することで、教員が教育活動を行う上での指針を明確にすること
- (2) 優れた教育実践を共有し、教員が修学を指導・支援する上で有益な情報を得ること
- (3) 全学教育の充実・改善課題と方向を明確にし、教員の教育改善に生かすこと

2. 日時・場所

平成31年3月8日(金) 13:00～16:00 川内北キャンパス A棟 A200 教室

3. テーマ “グローバルリーダーの育成”

4. スケジュール

司会 教育情報・評価改善委員会委員 串本 剛

13:00 開会挨拶 学務審議会委員長 滝澤博胤

13:05 オリエンテーション 教育情報・評価改善委員会委員長 笹野泰之

13:25 「東北大学におけるグローバル教育」
東北大学総長特別補佐(国際交流担当) 末松和子

14:00 「新渡戸カレッジが目指すものー北海道大学のグローバル人材育成」
北海道大学総長補佐(高等教育推進機構) 高橋 彩

休憩 14:35～14:45

司会 教育情報・評価改善委員会委員長 笹野泰之

14:45 「グローバルラーニングセンターにおける短期海外研修プログラムの展開と学習成果」
グローバルラーニングセンター 准教授 渡部由紀

15:10 「国際混住寮ユニバーシティ・ハウスでのグローバル人材育成の取組み」
東北大学総長特別補佐(学生支援担当) 菅原俊二

15:35～15:55 質疑応答

15:55 閉会挨拶 高度教養教育・学生支援機構副機構長

第13回東北大学全学教育FD参加者数一覧

部局	参加者数(名)
委員・全大会講師等	7
文学研究科・文学部	2
教育学研究科・教育学部	3
経済学研究科・経済学部	2
理学研究科・理学部	5
医学系研究科・医学部	4
歯学研究科・歯学部	1
薬学研究科・薬学部	4
工学研究科・工学部	8
農学研究科・農学部	2
国際文化研究科	2
情報科学研究科	4
生命科学研究科	2
医工学研究科	1
流体科学研究所	2
多元物質科学研究所	1
高度教養教育・学生支援機構	14
教育情報基盤センター	1
非常勤講師	16
図書館	3
計	84



司 会
教育情報・評価改善委員会委員 串本 剛



開 会 挨 拶
学務審議会委員長 滝澤 博胤



オリエンテーション・閉 会 挨 拶
教育情報・評価改善委員会委員長 笹野 泰之



「東北大学におけるグローバル教育」
東北大学総長特別補佐（国際交流担当）末松和子



「新渡戸カレッジが目指すものー北海道大学のグ
ローバル人材育成」
北海道大学総長補佐（高等教育推進機構）高橋 彩



「グローバルラーニングセンターにおける短期
海外研修プログラムの展開と学習成果」
グローバルラーニングセンター准教授 渡部由紀



「国際混住寮ユニバーシティ・ハウスでのグロー
バル人材育成の取組み」
東北大学総長特別補佐（学生支援担当）菅原俊二



研修風景 1



研修風景 2

1. オリエンテーション

教育情報・評価改善委員会委員長
笹野 泰之

第13回東北大学全学教育FD

「オリエンテーション」

教育情報・評価改善委員会
笹野 泰之

平成31年3月8日(金)

1

1. 目的

- (1) 東北大学全学教育の基本理念を理解・共有することで、教員が教育活動を行う上での指針を明確にすること
- (2) 優れた教育実践を共有し、教員が修学を指導・支援する上で有益な情報を得ること
- (3) 全学教育の充実・改善課題と方向を明確にし、教員の教育改善に生かすこと

2

第13回東北大学全学教育FD

「グローバルリーダーの育成」

3

「東北大学におけるグローバル教育」

東北大学総長特別補佐(国際交流担当) 末松和子

「新渡戸カレッジが目指すもの— 北海道大学のグローバル人材育成」

北海道大学総長補佐(高等教育推進機構) 高橋 彩

4

**「グローバルラーニングセンターにおける短期
海外研修プログラムの展開と学習成果」**

グローバルラーニングセンター 准教授 渡部由紀

**「国際混住寮ユニバーシティ・ハウスでの
グローバル人材育成の取組み」**

東北大学総長特別補佐(学生支援担当) 菅原俊二

5

全学教育を担当される先生方へのお願い

6

「クラス指定の同一名称科目」の成績評価

「クラス指定の同一名称科目」(「基礎ゼミ」と受講生20名以下の少人数教育を除く)は、同一の学習到達目標と内容を持つ科目が、学生の適正規模を確保するために、複数の担当者による複数クラス開講として行われ、学生が選択の余地なく受講クラスが指定されているものである。

*「履修クラス指定授業科目」(平成24年度)

数学概論B, 数学概論C, 解析学概要, 解析学A, 解析学B, 解析学C,
解析学D, 線形代数学概要, 線形代数学A, 線形代数学B, 数理統計学,
物理学A, 物理学B, 物理学C, 物理学D, 自然科学総合実験,
化学A, 化学B, 化学C, 英語A1, 英語A2, 英語B1, 英語B2,
スポーツA, スポーツB

こうした科目の性格に鑑み、成績評価の結果がクラス間で著しく異なることがないよう、科目委員会において、クラス間の成績分布を担当教員間で論議し、評価の方法や水準についての共通理解を図り、成績分布の調整を行うなどの方策を取るようにする。

*「参考となる取り組み」

全学教育外国語委員会英語部会では、AA=評価Aの中で特に優秀な3分の1程度、A=クラス全体の上位30%程度、BおよびC=ある程度バランスを保つこと、D=評価基準と人数について特に配慮すること、と基準比率を定め実施している。また工学部機械・知能系では、教務委員会が「AA:A:B:C=1:2:4:3」で採点することを提案している。評価改善委員会の議論では、AA=1～2割程度、A=2～3割程度、B=2から4割程度、C=1～2割程度、D=2割以下、という意見もある。

7

時間割コード	セメ	科目名	AA		A		B		C		D		計
X 学部 1組	X	英語 X	12	15.6%	14	18.2%	36	46.8%	11	14.3%	4	5.2%	77
X 学部 2組	X	英語 X	4	10.0%	10	25.0%	12	30.0%	14	35.0%	0	0.0%	40
X 学部 3組	X	英語 X	0	0.0%	11	28.2%	25	64.1%	3	7.7%	0	0.0%	39
X 学部 4組	X	英語 X	4	10.3%	17	43.6%	12	30.8%	6	15.4%	0	0.0%	39
X 学部 5組	X	英語 X	8	22.9%	18	51.4%	7	20.0%	0	0.0%	2	5.7%	35
X 学部 6組	X	英語 X	2	6.7%	10	33.3%	12	40.0%	4	13.3%	2	6.7%	30
X 学部 7組	X	英語 X	7	21.9%	15	46.9%	9	28.1%	1	3.1%	0	0.0%	32
X 学部 8組	X	英語 X	3	9.4%	5	15.6%	9	28.1%	10	31.3%	5	15.6%	32
X 学部 9組	X	英語 X	3	9.4%	7	21.9%	17	53.1%	5	15.6%	0	0.0%	32
X 学部 10組	X	英語 X	4	12.5%	7	21.9%	19	59.4%	2	6.3%	0	0.0%	32

8

全学教育科目の成績評価ガイドライン

(1) 成績評価ガイドライン設定の趣旨

成績評価は、学生の学習成果を測定し当該科目の習得状況を把握して単位修得を認定するものであり、大学教育のレベルを客観的に保証する役割を持つ。

また、成績評価は、学生にとっては自己の学習活動を振り返り、教員にとっては自己の教育活動と効果を把握する形成的な役割も持ち、客観的で公平な成績評価を実施することは教育の質保証にとって必須の条件である。

全学教育は大学教育の入り口に位置し、学生が大学での学習習慣を身につける重要な機会であり、学部によっては全学教育科目の成績を活用して研究室選択の選抜資料に利用することもあり、信頼性のある評価が求められている。全学教育における成績評価の考え方を明確にし、教員・学生間で共有することが必要である。

特に、同一科目のクラス指定授業(別掲「履修クラス指定授業科目一覧」参照)において担当教員間で成績評価の結果が著しく異なることは、成績評価への不信をもたらし、その解決は学生側からも教員側からも急務の要請となっている。

そこで、①到達度評価としての成績評価の明確化、②科目群ごとの成績評価の考え方の共有化、③クラス指定科目における成績分布の設定、の3項目から成る本ガイドラインを作成することによって、厳格で公平な成績評価をさらに推進するうえでの一助とする。

(2) 成績評価の基本的考え方

①到達度評価としての成績評価の実施

各授業科目における成績評価は、担当教員がシラバスで提示した学習到達目標を基準に、その目標に対してどれだけ達成したかの程度にもとづく「到達度評価」として実施する。

②科目ごとの成績評価のあり方の共通理解

教員が学習到達目標をどのレベルに設定するかは、成績評価を行う際の重要なポイントであり、かつ、その目標設定の仕方によって成績評価の分布の形状等が大きく異なってしまう。個々の授業実施と成績評価の責任は教員個人に属するが、教育は大学としての組織的営みであり、各科目における成績評価のあり方は、科目ごとに全学教育の理念をふまえて共有化していくことが望ましい。

そのため、科目委員会は当該科目の特性に即して、担当教員による適切な成績評価が実施されるように検討し、担当教員間で共有するように促進することとする。

科目委員会は、学生の属する学部や入学前の学習歴及び科目の特性を視野に入れて、同一名称の科目の学習到達目標、到達すべき水準を明確にし、担当教員間で共有できるようにする。

9

③「クラス指定の同一名称科目」の成績評価

「クラス指定の同一名称科目」(「基礎ゼミ」と受講生20名以下の少人数教育を除く)は、同一の学習到達目標と内容を持つ科目が、学生の適正規模を確保するために、複数の担当者による複数クラス開講として行われ、学生が選択の余地なく受講クラスが指定されているものである。

*「履修クラス指定授業科目」(平成24年度)

数学概論B、数学概論C、解析学概要、解析学A、解析学B、解析学C、
解析学D、線形代数学概要、線形代数学A、線形代数学B、数理統計学、
物理学A、物理学B、物理学C、物理学D、自然科学総合実験、
化学A、化学B、化学C、英語A1、英語A2、英語B1、英語B2、
スポーツA、スポーツB

こうした科目の性格に鑑み、成績評価の結果がクラス間で著しく異なることがないよう、科目委員会において、クラス間の成績分布を担当教員間で論議し、評価の方法や水準についての共通理解を図り、成績分布の調整を行うなどの方策を取るようにする。

*「参考となる取り組み」

全学教育外国語委員会英語部会では、AA=評価Aの中で特に優秀な3分の1程度、A=クラス全体の上位30%程度、BおよびC=ある程度バランスを保つこと、D=評価基準と人数について特に配慮すること、と基準比率を定め実施している。また工学部機械・知能系では、教務委員会が「AA:A:B:C=1:2:4:3」で採点することを提案している。評価改善委員会の議論では、AA=1~2割程度、A=2~3割程度、B=2から4割程度、C=1~2割程度、D=2割以下、という意見もある。

※注意事項

「クラス指定の同一名称科目」(「基礎ゼミ」と受講生20名以下の少人数教育を除く)は、同一の学習到達目標と内容を持つ科目が、学生の適正規模を確保するために、複数の担当者による複数クラス開講として行われ、学生が選択の余地なく受講クラスが指定されているものですので、学生から申請があっても特別な事情がない限り、他クラスへの移動は、原則お認めにならないようにお願いします。

10

第13回東北大学全学教育FD
「グローバルリーダーの育成」

11

全学教育科目の成績評価ガイドライン

平成24年11月5日 学務審議会

(1) 成績評価ガイドライン設定の趣旨

成績評価は、学生の学習成果を測定し当該科目の習得状況を把握して単位修得を認定するものであり、大学教育のレベルを客観的に保証する役割を持つ。

また、成績評価は、学生にとっては自己の学習活動を振り返り、教員にとっては自己の教育活動と効果を把握する形成的な役割も持ち、客観的で公平な成績評価を実施することは教育の質保証にとって必須の条件である。

全学教育は大学教育の入り口に位置し、学生が大学での学習習慣を身につける重要な機会であり、学部によっては全学教育科目の成績を活用して研究室選択の選抜資料に利用することもあり、信頼性のある評価が求められている。全学教育における成績評価の考え方を明確にし、教員・学生間で共有することが必要である。

特に、同一科目のクラス指定授業（別掲「履修クラス指定授業科目一覧」参照）において担当教員間で成績評価の結果が著しく異なることは、成績評価への不信をもたらすもので、その解決は学生側からも教員側からも急務の要請となっている。

そこで、①到達度評価としての成績評価の明確化、②科目群ごとの成績評価の考え方の共有化、③クラス指定科目における成績分布の設定、の3項目から成る本ガイドラインを作成することによって、厳格で公平な成績評価をさらに推進するうえでの一助とする。

(2) 成績評価の基本的考え方

①到達度評価としての成績評価の実施

各授業科目における成績評価は、担当教員がシラバスで提示した学習到達目標を基準に、その目標に対してどれだけ達成したかの程度にもとづく「到達度評価」として実施する。

②科目ごとの成績評価のあり方の共通理解

教員が学習到達目標をどのレベルに設定するかは、成績評価を行う際の重要なポイントであり、かつ、その目標設定の仕方によって成績評価の分布の形状等が大きく異なってしまう。個々の授業実施と成績評価の責任は教員個人に属するが、教育は大学としての組織的営みであり、各科目における成績評価のあり方は、科目ごとに全学教育の理念をふまえて共有化していくことが望ましい。

そのため、科目委員会は当該科目の特性に即して、担当教員による適切な成績評価が実施されるように検討し、担当教員間で共有するように促進することとする。

科目委員会は、学生の属する学部や入学前の学習歴及び科目の特性を視野に入れて、同一名称の科目の学習到達目標、到達すべき水準を明確にし、担当教員間で共有できるようにする。

③「クラス指定の同一名称科目」の成績評価

「クラス指定の同一名称科目」（「基礎ゼミ」と受講生 20 名以下の少人数教育を除く）は、同一の学習到達目標と内容を持つ科目が、学生の適正規模を確保するために、複数の担当者による複数クラス開講として行われ、学生が選択の余地なく受講クラスが指定されているものである。

＊「履修クラス指定授業科目」（平成 24 年度）

数学概論 B, 数学概論 C, 解析学概要, 解析学 A, 解析学 B, 解析学 C,
解析学 D, 線形代数学概要, 線形代数学 A, 線形代数学 B, 数理統計学,
物理学 A, 物理学 B, 物理学 C, 物理学 D, 自然科学総合実験,
化学 A, 化学 B, 化学 C, 英語 A1, 英語 A2, 英語 B1, 英語 B2,
スポーツ A, スポーツ B

こうした科目の性格に鑑み、成績評価の結果がクラス間で著しく異なることがないよう、科目委員会において、クラス間の成績分布を担当教員間で論議し、評価の方法や水準についての共通理解を図り、成績分布の調整を行うなどの方策を取るようにする。

＊「参考となる取り組み」

全学教育外国語委員会英語部会では、AA=評価 A の中で特に優秀な 3 分の 1 程度、A=クラス全体の上位 30%程度、B および C=ある程度バランスを保つこと、D=評価基準と人数について特に配慮すること、と基準比率を定め実施している。また工学部機械・知能系では、教務委員会が「AA : A : B : C = 1 : 2 : 4 : 3」で採点することを提案している。評価改善委員会の議論では、AA=1～2 割程度、A=2～3 割程度、B=2 から 4 割程度、C=1～2 割程度、D=2 割以下、という意見もある。

(別紙)

平成30年度 履修クラス指定授業科目一覧

科目名	開講クラス	1年次第1学期		1年次第2学期		2年次第1学期		2年次第2学期		合計	
		クラス数	受講者数	クラス数	受講者数	クラス数	受講者数	クラス数	受講者数	クラス数	受講者数
数学概論B	文系	2	29							3	2
	保(看)	1	70								1
数学概論C	文系			3	186					4	3
	保(看)			1	10						1
解析学概要	保(放検)歯薬農			4	262					5	4
	国際学士コース			1	6						1
解析学A	理	4	281								4
	理(生)保(放)	1	45								1
	工(1-5,15-16組)	5	363								5
	工(6-14組)	7	508								7
	国際学士コース										1
解析学B	理			4	301						4
	理(生)保(放)			1	47						1
	工(1-5,15-16組)			5	338						5
	工(6-14組)			7	521						7
	国際学士コース										1
解析学C	理					2	172				2
	工(1-5,15-16組)					4	272				4
	工(6-14組)					5	346				5
	国際学士コース							1	68		1
解析学D	理					3	206			4	3
	工(1-5,11-16組)							1	28		1
線形代数学概要	歯					※理(生)保(放検)薬農と同時開講					※と同時開講
	理(生)保(放検)薬農	※4	※314								※4
	医			1	4						1
	国際学士コース			1	5						1
線形代数学A	理	5	365								5
	工(1-5,15-16組)	5	337								5
	工(6-14組)	6	479								6
	国際学士コース			1	30						1
線形代数学B	理			5	325						5
	工(1-5,15-16組)			5	331						5
	工(6-14組)			6	507						6
	国際学士コース					1	32				1
数理統計学	理					3	243				3
	医	2	137								2
	保					1	33				1
	歯					1	54				1
	薬農					2	160				2
	工(1-5,15-16組)					1	51				1
	工(6-14組)					4	305				4
	国際学士コース							1	29		1
物理学A	理(化)	1	74								1
	理(生)	1	41								1
	理(数地)	1	93								1
	理(物理2組)	1	58								1
	理(物理3組)	1	58								1
	医	1	140								1
	保歯(未履修)	1	52								1
	保歯(既履修)	1	107								1
	薬	1	90								1
	工(1-5組)	3	237								3
	工(6-10組)	3	252								3
	工(11-12組)	1	80								1
	工(11-14組)	1	77								1
	工(13-14組)	1	66								1
	工(15-16組)	1	109								1
	農(未履修)	2	83								2
	農(既履修)	1	78								1
	国際学士コース(未履修)			1	5						1
	国際学士コース(既履修)			1	23						1
物理学B-1,2	理(化生)			1	62						1
	理(数地)			1	79						1
	理(物理2組)			1	62						1
	理(物理3組)			1	61						1
	医歯			1	55						1
	保薬農			1	73						1
	工(1-5組)			3	266						3
	工(6-10組)			3	251						3
	工(11,13組)			1	71						1
	工(12,14組)			1	65						1
	工(15-16組)			1	38						1
	国際学士コース					1	23				1
物理学C	理(数化地生)					1	150				1
	理(物理2組)					1	59				1
	理(物理3組)					1	68				1
	医保歯薬農					1	17				1
	工(1-5組)					1	27				1
	工(6-10,13組)					1	67				1
	工(11組)					1	58				1
	工(12組)					1	55				1
	工(14-16組)					1	66				1
	国際学士コース					1	25				1

科目名	開講クラス	1年次第1学期		1年次第2学期		2年次第1学期		2年次第2学期		合計	
		クラス数	受講者数	クラス数	受講者数	クラス数	受講者数	クラス数	受講者数	クラス数	受講者数
物理学D	理(化)保					※理(数地生)医歯薬農と同時開講				6	※と同時開講
	理(数地生)医歯薬農	※1	※149								※1 ※149
	理(物理2,3組)	1	118								1 118
	工(1-5組)	2	225								2 225
	工(13-14組)	1	44								1 44
自然科学総合実験-1,2	工(15-16組)	1	104								1 104
	理			1	286					7	1 286
	医歯薬	1	240								1 240
	薬農			1	237						1 237
	工(1-5,15組)	1	288								1 288
	工(6-10,16組)	1	305								1 305
	工(11-14組)			1	224						1 224
	国際学士コース					1	29				1 29
化学A	理(化)	1	73							21	1 73
	理(数・物理2組)	1	70								1 70
	理(地生)	1	89								1 89
	理(物理3組)	1	50								1 50
	医保	1	80								1 80
	歯	1	55								1 55
	薬	1	86								1 86
	工(1-5,11-12,15-16組)	6	442								6 442
	工(6-10,13-14組)	5	381								5 381
	農	2	159								2 159
化学B	国際学士コース			1	28						1 28
	理(化)			1	91					13	1 91
	理(数物)					1	20				1 20
	理(地生)					1	59				1 59
	薬			1	90						1 90
	保工(1-5,15-16組)					3	247				3 247
	歯工(6-14組)			5	295						5 295
	国際学士コース			1	23						1 23
化学C	理(化)			1	75					14	1 75
	理(数物)			1	72						1 72
	理(地生)			1	69						1 69
	医保			1	38						1 38
	歯			1	53						1 53
	薬	1	86								1 86
	工(1-5,15-16組)			3	213						3 213
	工(6-10,13-14組)					1	85				1 85
	工(11-12組)			1	113						1 113
	農			2	155						2 155
英語A1	国際学士コース					1	21				1 21
	全	1	10							1	1 10
英語A1-1,2	文教	8	296							71	8 296
	法	5	173								5 173
	経	7	276								7 276
	理	9	324								9 324
	医	4	138								4 138
	保	4	144								4 144
	歯	2	55								2 55
	薬	3	86								3 86
	工(6-14組)	12	467								12 467
	工(1-5,15-16組)	10	334								10 334
	農	4	150								4 150
	全	2	58								2 58
英語A2	全(上級者用)	1	11								1 11
	全			1	7					2	1 7
英語A2-1,2	全(上級者用)			1	6						1 6
	文教			8	296					72	8 296
	法			5	172						5 172
	経			7	271						7 271
	理			9	323						9 323
	医			4	138						4 138
	保			4	143						4 143
	歯薬			4	137						4 137
	工(1-5,15-16組)			10	329						10 329
	工(6-14組)			12	469						12 469
	農			4	147						4 147
	全			4	54						4 54
	全(上級者用)			1	11						1 11
英語B1	全	1	3							1	1 3
英語B1-1,2	文教	8	294							70	8 294
	法	5	175								5 175
	経	7	274								7 274
	理	9	325								9 325
	医歯薬	7	281								7 281
	保	4	144								4 144
	工(1-5,15-16組)	10	333								10 333
	工(6-14組)	12	467								12 467
	農	4	151								4 151
	全	3	51								3 51
英語B2	全(上級者用)	1	12								1 12
	全			1	14					2	1 14
	全(上級者用)			1	12						1 12
	全										

科目名	開講クラス	1年次第1学期		1年次第2学期		2年次第1学期		2年次第2学期		合計		
		クラス数	受講者数	クラス数	受講者数	クラス数	受講者数	クラス数	受講者数	クラス数	受講者数	
英語B2-1,2	文			6	221					71	6	221
	教			2	73						2	73
	法			5	173						5	173
	経			7	273						7	273
	理			9	323						9	323
	保			4	140						4	140
	医歯薬			7	273						7	273
	工(1-5,15-16組)			10	331						10	331
	工(6-14組)			12	468						12	468
	農			4	151						4	151
	全			4	64						4	64
全(上級者用)			1	11					1	11		
スポーツA	文教	4	135							48	4	135
	法			3	81						3	81
	経			6	274						6	274
	理			3	103						3	103
	保	3	142								3	142
	医歯薬	6	276								6	276
	工(1-5組)					5	251				5	251
	工(6-10組)					5	249				5	249
	工(11-12組)					3	110				3	110
	工(13-16組)					6	226				6	226
農			4	155					4	155		
スポーツB	全					6	100	4	41	10	10	141
	合計	250	13,252	249	11,716	72	3,927	7	166	578	578	29,061

2. 「東北大学におけるグローバル教育」

東北大学総長特別補佐（国際交流担当）

末松 和子

東北大学における グローバル教育

東北大学 高度教養教育・学生支援機構
グローバルラーニングセンター副センター長
末松和子

目次

- なぜグローバル教育か？
- 東北大学のグローバル教育の歩み
- 東北大学グローバルリーダー育成プログラム
- 人材育成としての留学プログラム
- 内なる国際化ー国際共修の取り組み
- グローバル教育における課題と展望

なぜグローバル教育か？ 世界規模で進む教育改革

OECD キーコンピテンシー (1997～)

- 社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力（知識や 情報を活用する能力やテクノロジーを活用する能力を含む）
- 多様な社会グループにおける人間関係形成能力
- 自律的に行動する能力

OECD (2005) The definition and selection of key competencies

EU キーコンピテンシー (リスボン会議 2000～)

- 母語におけるコミュニケーション力
- 外国語におけるコミュニケーション力
- 科学技術における数学的能力と基礎的能力
- デジタル能力
- 学ぶことを学ぶ力
- 社会的・市民的能力
- イニシアチブと起業家の感覚の力
- 文化的意識と表現の力

2

European Commission (2007) Key competencies for lifelong-learning

なぜグローバル教育か？ ジェネリック・スキル・ムーブメント

21世紀型スキル

Transferable Skills

- 思考の方法(Ways of Thinking)
 - (1)創造力とイノベーション
 - (2)批判的思考、問題解決、意思決定
 - (3)学びの学習、メタ認知（認知プロセスに関する知識）

Employability

- 仕事の方法(Ways of Working)
 - (4)情報リテラシー
 - (5)情報通信技術に関するリテラシー（ICTリテラシー）

学士力

- 仕事のツール(Tools for Working)
 - (6)コミュニケーション
 - (7)コラボレーション（チームワーク）

社会人基礎力

- 社会生活(Skills for Living in the World)
 - (8)地域と国際社会での市民性
 - (9)人生とキャリア設計
 - (10)個人と社会における責任（文化的差異の認識および受容能力）

3

なぜグローバル教育か？

日本の高等教育政策

大型競争資金獲得による加速的なグローバル化を推進

■ 国際化拠点整備事業：大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業

通称：「グローバル30」（H21～H25年度）

目的：留学生受入体制の整備をはじめとする大学の国際化へ向けた取組を実施し留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な人材の養成

■ 経済社会を牽引するグローバル人材育成支援事業（H24～H28年度）

目的：グローバルな舞台に積極的に挑戦し世界に飛躍できる人材の育成を図るため学生のグローバル対応力を徹底的に強化し推進する組織的な教育体制整備の支援

■ スーパーグローバル大学創成支援事業（H26～H35年度）

目的：高等教育の国際競争力の向上を目的に、海外の卓越した大学との連携や大学改革により徹底した国際化を進める、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や国際化を牽引するグローバル大学に対し、制度改革と組み合わせ重点支援を実施



4

東北大学のグローバル教育の歩み

- 国際学士コース（理・工・農）
- 国際大学院コース
- 英語による交換留学プログラム
- 国際共同大学院
- グローバル入試
- 国際混住寮
- グローバルリーダー育成
- 派遣留学の拡大
- 国際共修科目

留学生数
増加

国内学生
のグロー
バル化

5

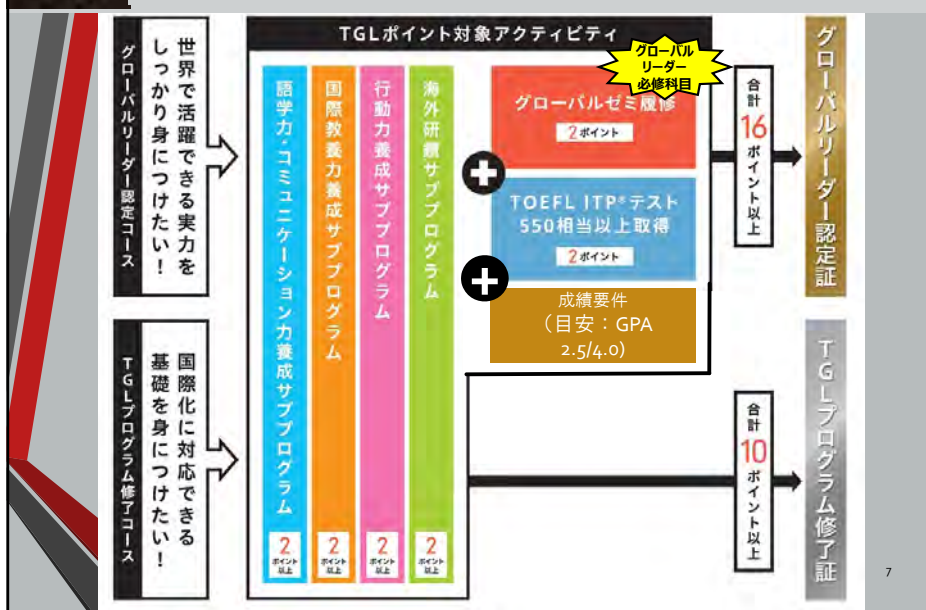
東北大学グローバルリーダー育成プログラム (TGL)



6



TGLポイント&リーダー認定



7

TGL必修：グローバルゼミ

2016年4月～

目 的	グローバルリーダーを目指す学生に対し細やかなサポートを提供し 質の高いグローバルリーダーを毎年一定数以上輩出する 目標： 年間100人（うちグローバルリーダー認定者40人）
対 象	学部1～2年前期（1～3セメスター）学生
定 員	約20名/クラス（3クラス×前期・後期＝年間120名）
形 式	アクティブラーニング（ディスカッション、プレゼンテーション等）
内 容	目標設定の考え方、自己分析、時事、キャリア



8

TGL指定科目

2018年度

- 全学教育科目：201科目
- 専門教育科目：139科目（9学部が提供）

教員・学部による自己評価・申請

指定科目
審査会

TGL運営
委員会で
承認

該当するサブプログラムを指定

9

学び・自己成長をモニタリング

グローバル人材 自己評価シート

国際 教養 力	自文化理解	自国の歴史や文化・社会などについて具体的に伝えるための十分な知識を持ち説明する力。
		1 自国の歴史や文化、社会について関心がない。
		2 自国の歴史や文化、社会についてあまり理解していない。
		3 自国の歴史や文化、社会について十分な知識を持っている。
		4 自国の歴史や文化、社会について自分の意見をもち、質問に答えられる。
	異文化理解	自分が育つてきた文化や伝統と異なる人々の文化やその背景について調べたり、直接話しを聞いていたりして共通点・相違点について理解する力。
		1 なじみのない文化や伝統、その背景についてはあまり関心がない。
		2 なじみのない文化や伝統、その背景について少し関心がある。
		3 自分とは異なる文化やその背景について興味を持ち理解しようとする。
		4 異なる文化背景を持つ人々に対しても興味を持ち理解しようとする。
	多様性の受容	自分とは異なる多様な価値観（言語、文化、国籍、人種、性別、宗教など）があることを認識し、自分との違いを受けとめる力。
		1 自分とは異なる多様な価値観にはあまり関心がない。
		2 自分とは異なる多様な価値観に少し関心がある。
		3 自分とは異なる多様な価値観に関心があり理解しようとしている。
		4 自分とは異なる多様な価値観をもつ人々を深く理解しようとしている。
国際 教養 力	倫理観・規律性	自分とは異なる多様な価値観をもつ人々に対しても同じように接し、それを尊重し行動することができる。
		1 社会や集団の中でルールや規律など、あまり気にしないで行動する。
		2 自分ではどうすべきなのかわからないが、周囲に合わせルールを守れないことがある。
		3 周囲の状況や他者に関係なく、ルールを尊重し自分の意志で行動を律することができる。
		4 社会や集団のルールが曖昧な状況でも、自分の良心と人としてなすべき判断のもと、自ら行動することができる。
	論理的思考力	社会や集団のルールが曖昧な状況でも適切な行動が取れるだけでなく、周囲に働きかけ全体の行動のあるべき方向へ促することができる。
		1 事実に基づいて物事を考え、整理することで相手に物事を理解させる力。
		2 物事を理解するときに、主観や感情と混同して捉えてしまうことがある。
		3 物事を理解するときに、主観や感情と混同することなく捉えられるが、合理的な判断ができないことがある。
		4 複雑で難しい事柄を整理して考えることができる。
		5 複雑で難しい事柄を整理し、相手に対して論理的に説明することができる。

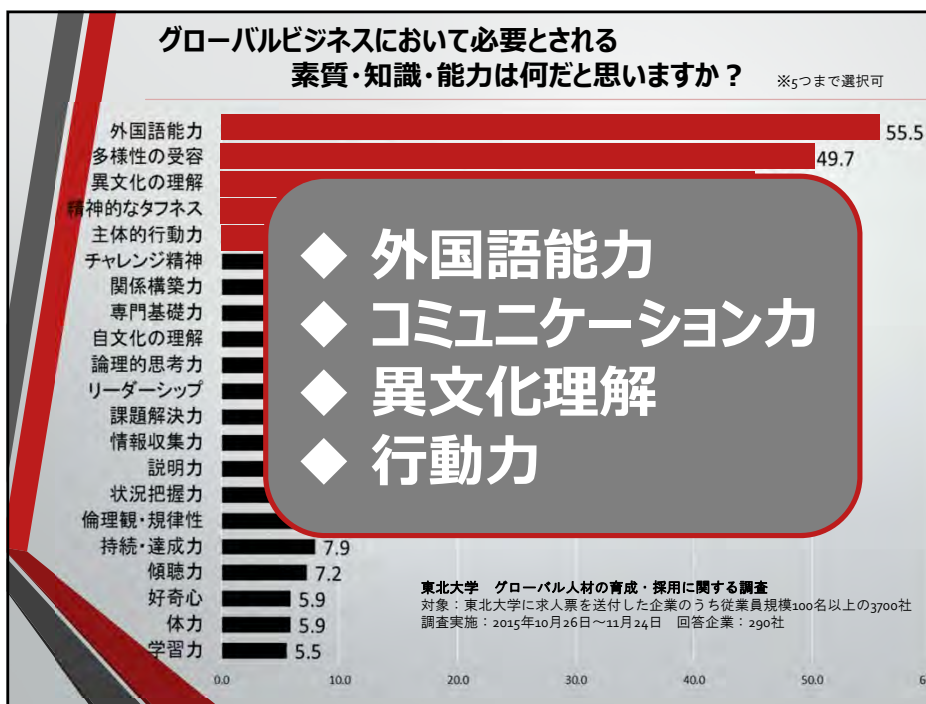
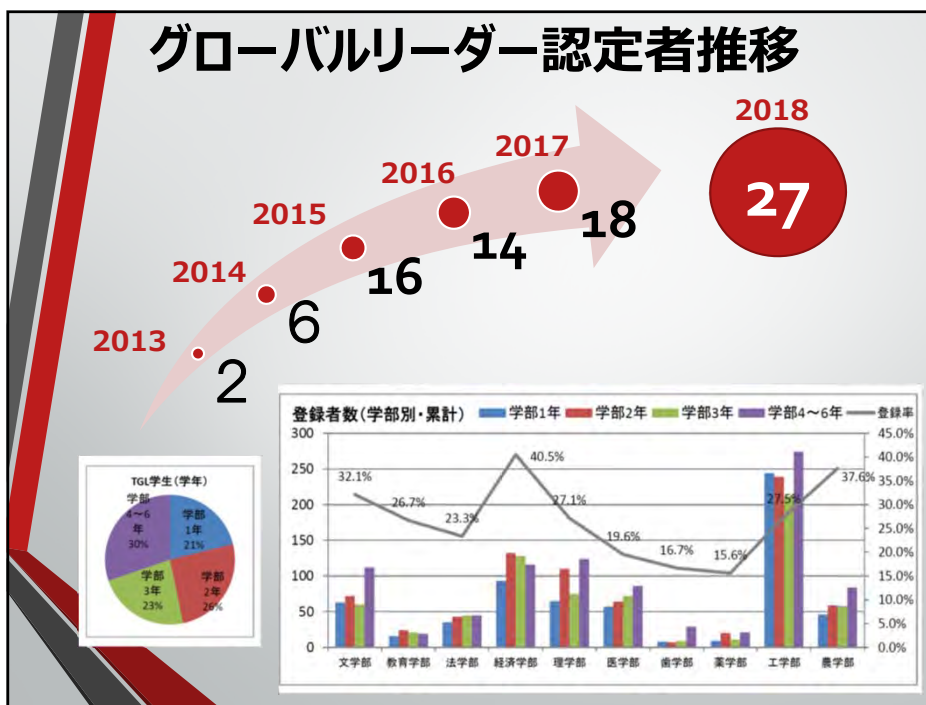
E-ポートフォリオを活用

10



グローバルリーダー認定証授与式

11



人材育成としての留学



質保証

- 単位付与
- 協定校との連携
- 事前・事後研修
- 危機管理
- 教員による継続的サポート

多様なプログラム

- 短期研修（SAP、FL、海外体験、研究）
- 交換留学
- 研究留学
- ダブルディグリー



14

留学の選択肢 本学の学術交流協定校

大学間：

36ヶ国・地域 229機関

(2018年8月時点)

部局間：

60ヶ国・地域 497機関

(2018年8月時点)

15

内なる国際化ー国際共修

留学生と国内学生が
共に学ぶ



国際共修ゼミ

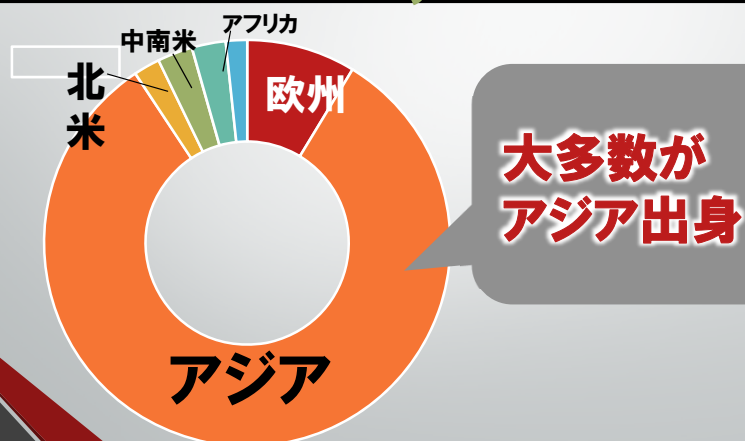
留学生とのディスカッション、
PBL（課題解決型）学
習で国際性や行動力を身
につける授業



17

本学の外国人留学生

98ヶ国・地域 2,028名が在籍 2016年5月現在



大多数が
アジア出身

18

2018年度より 国際教育科目委員会を設置

- 国際共修実践ガイドライン
- モデル・シラバスの提示
- 国内外の教育実践調査・ペダゴジー研究
- FD・シンポジウムの開催



部局への働きかけを開始

19

グローバル教育の課題と展望

プロジェクト型→本流教育へ

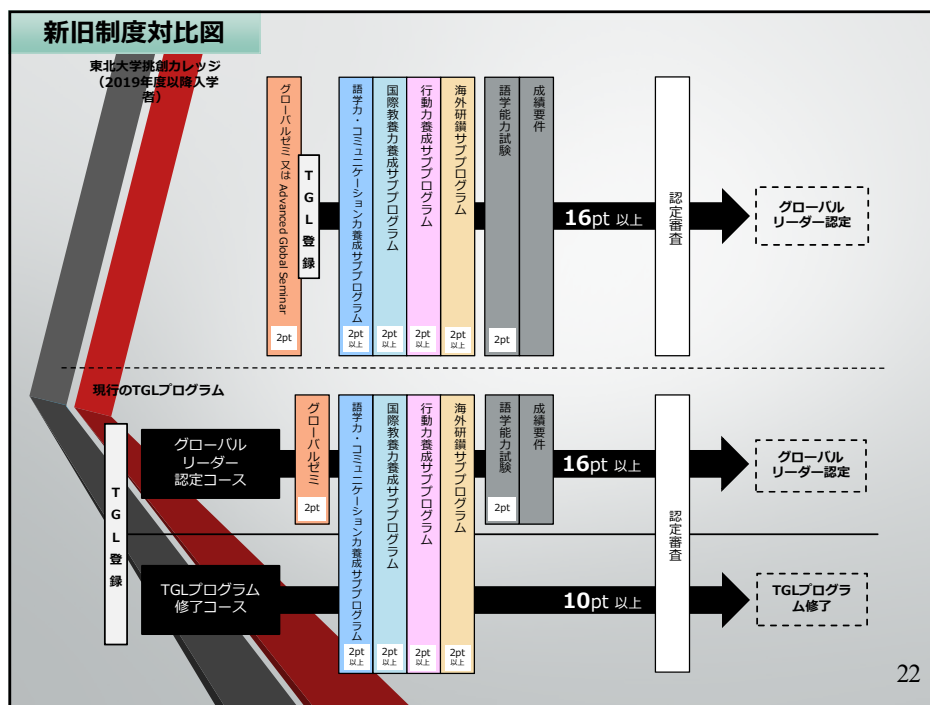
- SGU終了、運営費交付金削減にも耐えうる持続可能なグローバル教育に発展
- 効果検証→PDCA
- 全学教育のカリキュラム改革に沿った発展
- グローバル人材（在校生、卒業生）によるブレン・経験循環
- 産官学連携、地域社会との連携促進

地球市民として国際社会の発展に
貢献できるグローバルリーダー育成

現代的教育プログラム 「東北大学挑創カレッジ」

- 変革期に生きる学生のための新たな全学教育プログラムとして、
「東北大学挑創カレッジ」を2019年度より開講
- 時代が要請する①グローバルマインドセット、②AI・データスキル、③アントレプレナーシップを身に付けるための実践教育を展開
- 学生の「挑戦する心」に応え、大きく伸ばすプログラムを開発





3. 「新渡戸カレッジが指すもの」
ー北海道大学のグローバル人材育成」

北海道大学総長補佐（高等教育推進機構）
高橋 彩

内 容

- I. 北海道大学概要
- II. 全学教育について
- III. 新渡戸カレッジとは
- IV. 新渡戸カレッジの取組
- V. 取組の意義
- VI. 新渡戸カレッジの目指すもの



新渡戸カレッジの目指すもの

—北海道大学におけるグローバル人材育成—
東北大学全学教育FD

2019年3月8日

高橋 彩

北海道大学総長補佐
高等教育推進機構・教授

Nitobe College

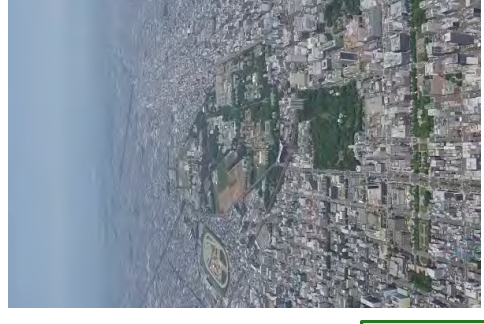
I. 北海道大学概要

新渡戸カレッジの背景として

I-北海道大学概要

基本情報

歴史： 1876年 「札幌農学校」開校
1907年 東北帝国大学農科大学
1918年 北海道帝国大学
1947年 北海道大学
学部・学院等：
12学部、3研究科・18学院/教育部
学生数：18,605
外国人学生数：2,161（「留学」以外含む）
(2018.5.1現在)



4つの基本理念

フロンティア精神 国際性の涵養	全人教育 実学の重視
--------------------	---------------

北海道大学近未来戦略150

「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」 創基150年は2026年

目 標

1. 次世代に持続可能な社会を残すため、様々な課題を解決する世界トップレベルの研究を推進する
2. 専門的知識に裏づけられた総合的判断力と高い識見、並びに異文化理解能力と国際的コミュニケーション能力を有し、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材を育成する
3. 学外との連携・協働により、知の発信と社会変革の提言を不断に行い、国内外の地域や社会における課題解決、活性化及び新たな価値の創造に貢献する
4. 総長のリーダーシップの下、組織及び人事・予算制度などの改革を行い、構成員が誇りと充実感を持って使命を遂行できる基盤を整備し、持続的な発展を見据えた大学運営を行う
5. 戦略的な広報活動を通じて、教育研究の成果を積極的に発信し、世界に存在感を示す



北海道大学

大学改革プランとしてのHUCI



北海道大学の国際化戦略 概要より
<https://www.hokudai.ac.jp/internationalization/huci/>



北海道大学

II. 全学教育について

北海道大学の教養教育



北海道大学

II 全学教育について

学士課程1年次の教育－総合教育部について

- 1学年約2600名
- 1年次は総合教育部に所属
- 「文系」「理系」の基本区分で学ぶ
- 全学教育科目を履修
- 2年次に12学部へ移行

→ 総合教育部で初年次教育



大学案内誌「Be ambitious」



北海道大学

全学教育

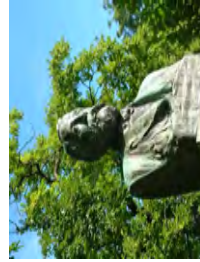
- 全学教育は1年次を中心に履修（高年次でも履修可）
- 幅広い全学教育科目（教養科目、基礎科目）
 - ＜一般教育演習（フレッシュマンセミナー）＞
 - ＜総合科目＞
 - ＜主題別科目＞
 - ＜外国語科目・外国語演習＞
 - ＜共通科目＞
 - ＜基礎科目＞
- 実施は全学の協力で



北海道大学

学部横断型特別教育プログラム

- 2013年4月開校
- 学部での教育にプラスして
- 全12学部の学生を対象とする1学年約200名のプログラム
- 留学および新渡戸カレッジ独自の授業科目を含む履修と行事への参加により、グローバル・リーダーへの基礎的なスキルとマインドを育成



新渡戸カレッジ 学生向け案内パンフレット
「新渡戸カレッジ－目指せ！北次養グローバルリーダー－」(2018)より



北海道大学

III. 新渡戸カレッジとは

その概要



北海道大学

新渡戸カレッジの特長

1. グローバル・リーダーを育成する2段階の教育プログラム
2. 自律的な個人の確立と専門能力を高める留学制度
3. リーダーシップに必要なスキルとマインドを育む独自のキャリアプログラム
4. 国際経験の豊かな同窓生等からなるフェローによるキャリア支援
(右パンフレットより)



新渡戸カレッジ 学生向け案内パンフレット
「新渡戸カレッジ－目指せ！北次養グローバルリーダー－」(2018)



北海道大学

IV. 新渡戸カレッジの取組

特長的な教育プログラムの紹介



北海道大学

リーダーシップに必要なスキルとマインドを育む独自のカリキュラム

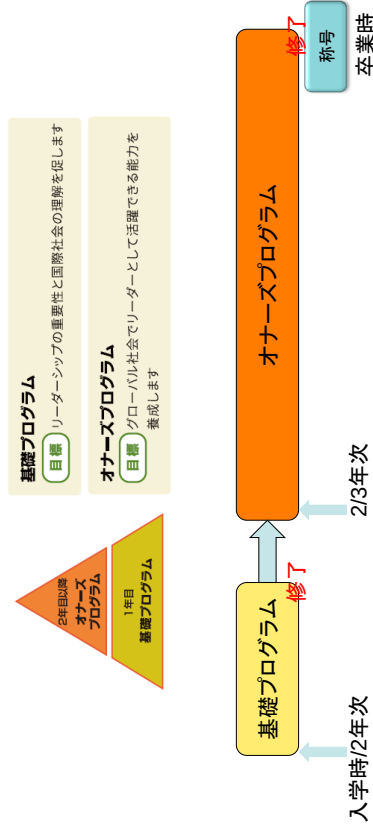
授業科目	単 位	修了要件	修了に必要な単位数
留学支援英語	2	必修	2単位以上 (留学支援英語2単位は必修)
海外短期語学研修	2	選択	
国際交流科目	1又は2	選択	
日本文化・社会に関する理解増進科目	1又は2	選択	
英語による学部専門科目	1又は2	選択	3単位以上 (グローバル基礎科目、 新渡戸学(フェローゼミ) 合計3単位は必修)
グローバル基礎科目(リーダーシップを考える)	1	必修	
グローバル基礎科目(留学を考える)	1	必修	
新渡戸学(フェローゼミ)	1	必修	
フィリッド型演習	2	選択	2単位以上 (グローバル基礎科目、 新渡戸学(フェローゼミ) 合計3単位は必修)
多文化交流科目	2	選択	
大学と社会	1	選択	
グローバル・キャリア・デザイン	2	選択	

新渡戸カレッジ 学生向け案内パンフレット(2018)より



北海道大学

グローバル・リーダーを育成する2段階の教育プログラム



北海道大学

自律的な個人の確立と専門能力を高める留学制度

- 長期留学(1セメスター以上の交換留学)
- 短期留学
 - 短期留学スペシャルプログラム
専門性の高い学部2年生以上のプログラム。
2週間程度。協定校等で英語による授業・演習・実習等を行う
 - 学部専門レベル短期留学
 - 国際インターンシップ
グローバルに展開する日本企業の
海外法人等における研修を中心と
するキャリア教育プログラム

→学部の状況に応じた柔軟な留学制度



北海道大学

国際経験の豊かな同窓生等からなるフェローによるキャリア支援

社会で活躍されている同窓生約35名(2018)がロールモデルとしてカレッジの教育に参画

フェローの情熱と高い教育力

- フェローゼミ
現地視察を含む課題発見、解決型演習。一クラス最大24名のゼミ生が、さらに小チームに分かれて課題に臨む。興味に応じてゼミの選択が可能
- 対話プログラム
同窓生フェローによる1対1の対話を行い、考え方や自らの将来の検討、リーダーシップ力育成を行う
- セルフキャリア発展ゼミ
自らの目標達成のための方法を学び、仲間と実践



北海道大学

人材育成のリーディングプログラムとして成果を全学に展開



(同上パンフレット「北大の人材戦略—新渡戸カレッジ—変化に向き合う国際イノベーション人材」より)



北海道大学

多様な人々との交流と実体験を通じた教育

＜新渡戸カレッジでは何を学んだのか＞

- 「体験して身につける」 「現実と向き合う」
- 「チームで成果を上げる」 「現場から学ぶ」

【学生の声】

「新渡戸カレッジは『もっと自分を磨きたい』という学生の切磋琢磨の場」「一対一の対話で、進路や就職についての具体的なアドバイスを得て、自分の考え方を深めることができました」

(新渡戸カレッジ 企業向けパンフレット
「北大の人材戦略—新渡戸カレッジ—変化に向き合う国際イノベーション人材」より)



北海道大学

V. 取組の意義

200/2600名に対する教育だけではなく

Good Practiceを全学へ

- 留学支援英語（外国語科目）

少人数クラスでネイティブ講師による実践的な英語能力の育成
新渡戸カレッジの必修授業。留学の事前準備として実施
履修者の高評価。カレッジ生以外からも希望多い

- グローバル基礎科目（総合科目）

能動的な学習姿勢への転換を促す新渡戸カレッジの必修授業
リーダーシップ力を主体的に考えるアクティブ・ラーニング型授業とグローバルな視野を養うための講義
リーダーに必要なスキルとマインドの基礎を学ぶ
グローバル人材育成における初年次教育



北海道大学

独自科目・教育実践による新しい教育への挑戦

- フェローゼミ（基礎プログラム・独自科目）

同窓生フェローの知見と経験を教育に生かすゼミ。ゼミ担当フェローを中心に支援教員が支える。ただし、課題に取り組むのは学生。先輩学生も支援員としてゼミを支えることで先輩・後輩ともにリーダーシップ力を鍛える

- セルフキャリア開発ゼミ（オナーズプログラム・独自科目）

企画段階からフェローと教員が協働し、目標や教育構造を作り上げた
コーチングやフェローの企業における後進指導の経験も生かしながら、授業と実践を通して、生涯学び続けるための基礎力を養成

- 対話プログラム（オナーズプログラム・独自取組）

メンタリングの手法を取り入れた対話による教育。進路検討とともにリーダーシップ力の育成を図る

フェローの実社会での知見、経験、対話力を教育に



北海道大学

Good Practiceを全学へ

- 多文化交流科目（一般教育演習）

日本人学生と外国人留学生の少人数共修による課題解決型アクティブ・ラーニング授業。新渡戸カレッジおよび留学生対象学士課程「現代日本学プログラム」(2015)のために開発。留学生と日本人学生の制度的交流、異文化の実体験



授業の広がりや質向上のための研究も

- 大学と社会（総合科目）

既存科目とのコラボレーション
フェローが講師として参加

- 英語による授業科目（国際交流科目）

学部レベルでの英語による授業科目の履修促進



北海道大学

留学の取組を牽引・促進

- 留学の目的と質保証

新渡戸カレッジの海外留学理念

「北海道大学の4つの基本理念と新渡戸稲造の精神に基づき、海外において高い倫理観と豊かな人間性をもった自律的な個人の確立と、論理的な思考力と高い専門能力を身につけることを海外留学の目的とする」

なお、各種短期プログラムは「海外留学」(国際交流科目)、「インターンシップ」(全学教育科目)、学部専門科目等として設定されている。その他にも「外国語演習」(全学教育科目)、「一般教育演習」(全学教育科目)として提供されている留学がある(新渡戸カレッジでは「海外留学」以外で認定)

- 教育制度改革の進展に寄与

「北海道大学フロンティア基金新渡戸カレッジ(海外留学)奨学金」による本格的な海外留学奨学金制度の創設

留学説明会・関係行事による情報提供および留学機運の醸成

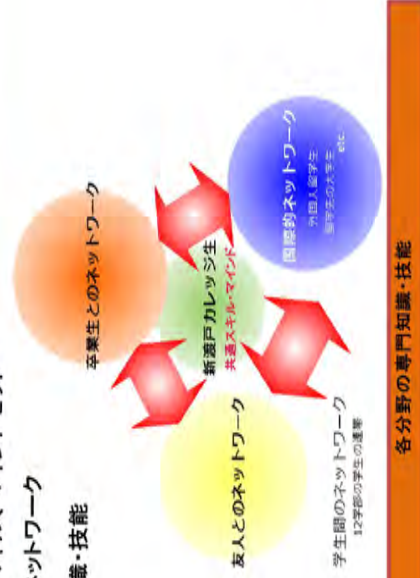
(上述については、北海道大学グローバル人材育成推進事業(新渡戸カレッジ)「自主事業評価報告書」(2017)で、その意義がまとめられている)



北海道大学

教育におけるネットワークの深化

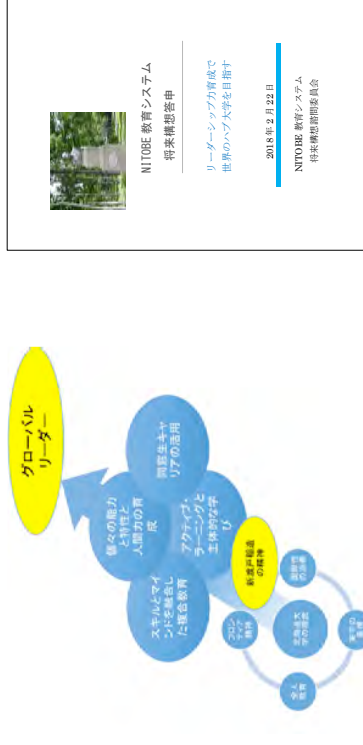
- (1) 共通のスキル、マインドセット
- (2) 3つのネットワーク
- (3) 専門知識・技能



コミュニケーションを通じた創造

フェローとの議論を通して練り上げた
教育理念

フェローを委員長とする諮問委員
会による将来構想



教育改革とガバナンス改革への貢献

VI. 新渡戸カレッジの目指すもの

辿り着くところは？

VI 新渡戸カレッジの目指すもの

不断の創造と挑戦



取組概要とともに、フェローの経験や学生による学び・体験が綴られている

ISBN 978-4-7791-2306-1

ISBN 978-4-7791-2490-7



自分の“みち”を見つけよう

グローバル社会で活躍するために必要なスキルとマインドを身につけるプログラムです。



2019-02-19
2019年度新渡戸カレッジ生（卒入校：新入生）の募集につ
いて「新渡戸カレッジ」HP



毎年、改革 (例)

- ・【2018】新渡戸カレッジオナーズプログラムの開始
- ・【2018】アドバンスドフェローゼミの試行
- ・【2019】新渡戸カレッジ（学部）、スクール（大学院）の統合による学部・大学院一貫プログラムへ



北海道大学

新渡戸カレッジの挑戦は続きます



北海道大学

創造と挑戦

- ・ 多様な人々や組織との連携によるリーダーシップ力育成
- ・ ネットワークによる教育の実践
- ・ 研究型総合大学におけるキャリア教育の模索
- ・ 教養を深化させる「コミュニケーション」



北海道大学

4. 「グローバルラーニングセンターにおける
短期海外研修プログラムの展開と学習成果」

グローバルラーニングセンター准教授
渡部 由紀

グローバルラーニングセンターにおける 短期海外研修プログラムの展開と学習成果

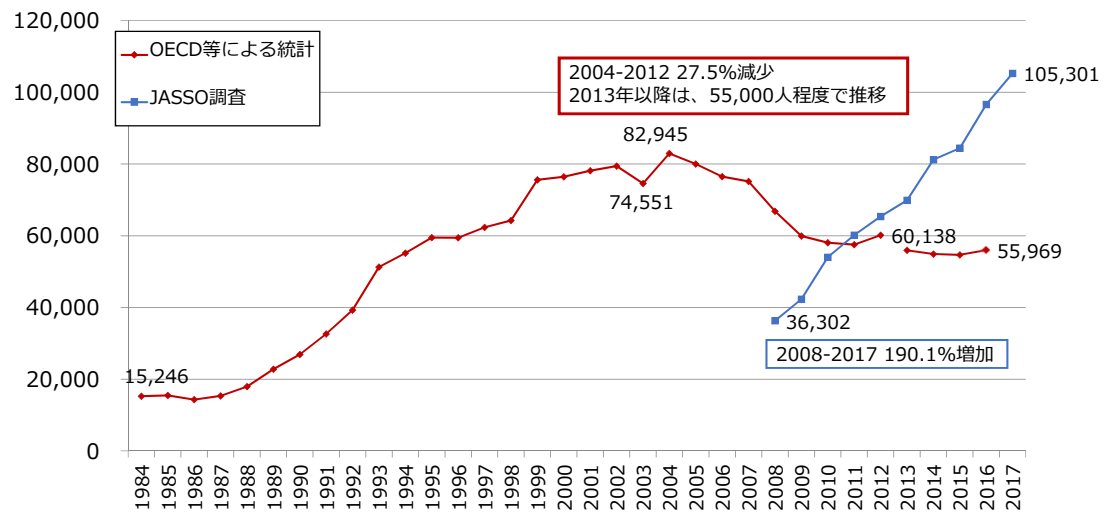
全学教育FD
2019年3月8日（金）

東北大学 高度教養教育・学生支援機構
グローバルラーニングセンター
渡部 由紀

目次

- 日本人の海外留学の動向と東北大生の留学志向
- 東北大学の海外留学プログラム
- スタディーアブロードプログラム（S A P）のカリキュラムと学習成果

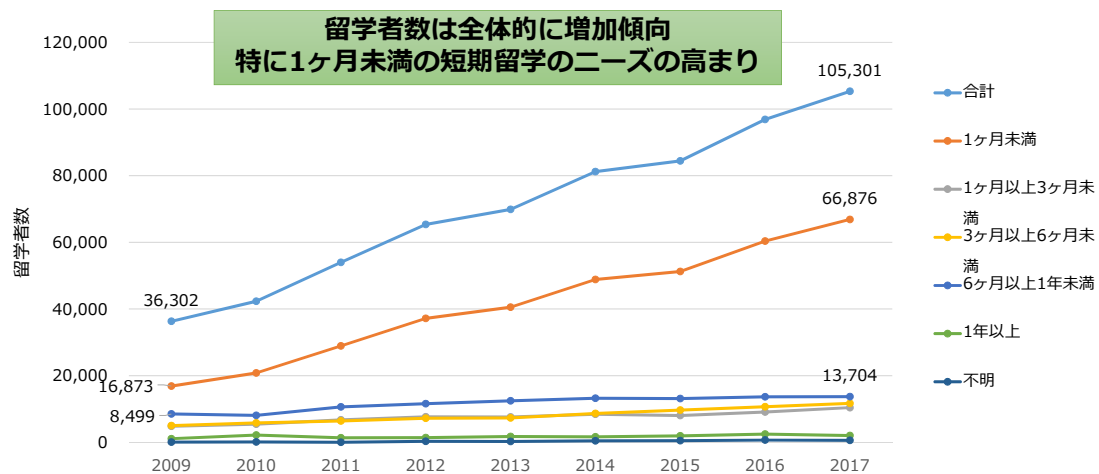
日本人の海外留学者数の推移



出所) 文部科学省, 2018, 「外国人留学生在籍状況調査」及び「日本人の海外留学者数」等について; JASSO, 2019, 「協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」および「協定等に基づかない日本人学生留学状況(在籍大学等把握分)」を基に作成

2

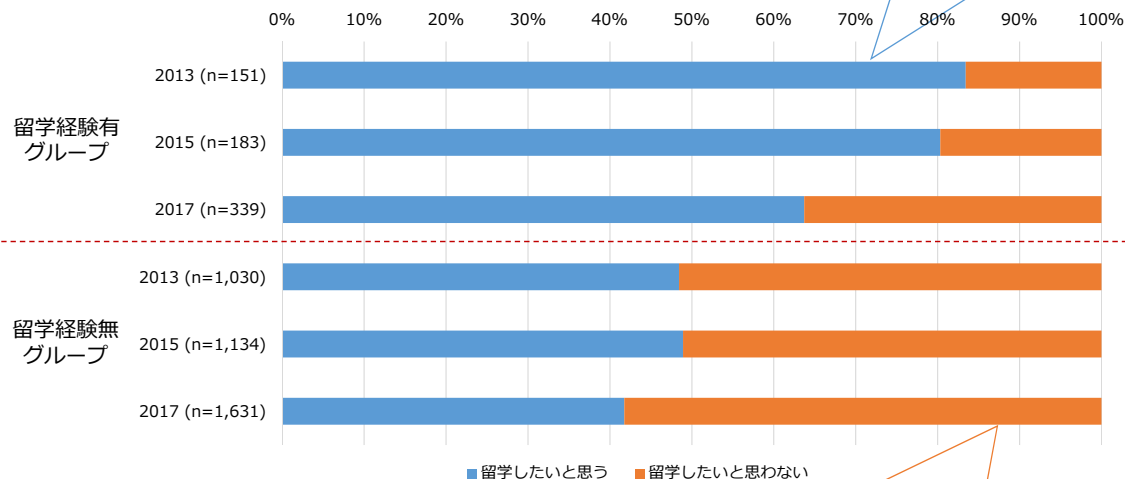
日本人の海外留学者数の推移：留学期間別 (JASSO調査)



3

東北大学学部生の留学志向

今後、在学中に海外留学をしたいと思いますか。



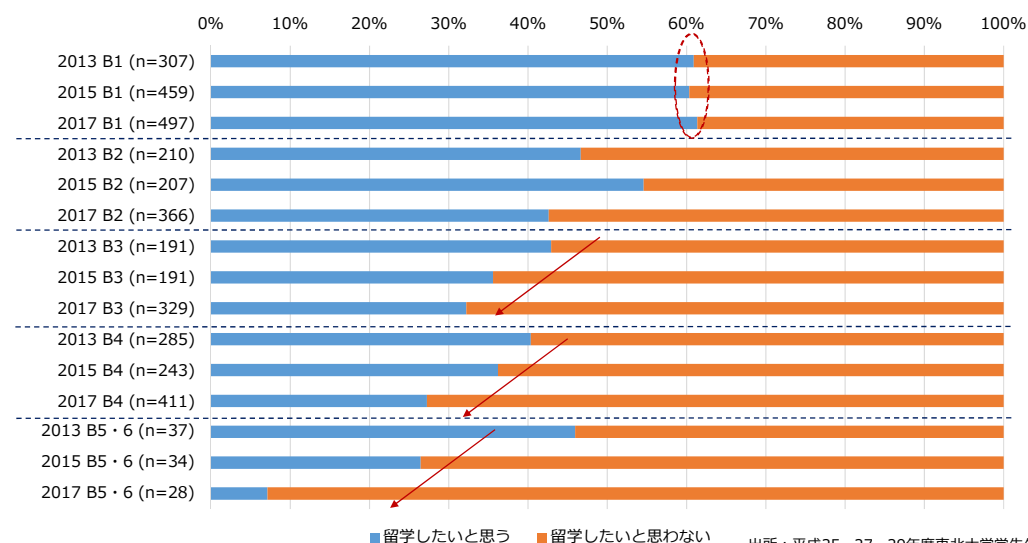
出所：平成25・27・29年度東北大学学生生活調査のデータを基に作成

留学未経験者は「留学したいと思わない」学生の割合が半数以上を占める。

4

東北大学学部生の留学志向

留学経験無グループ：学年別



1年生の留学志向は過去3回の調査で一定しており、約6割の学生が「在学中に、留学したい」と回答している。

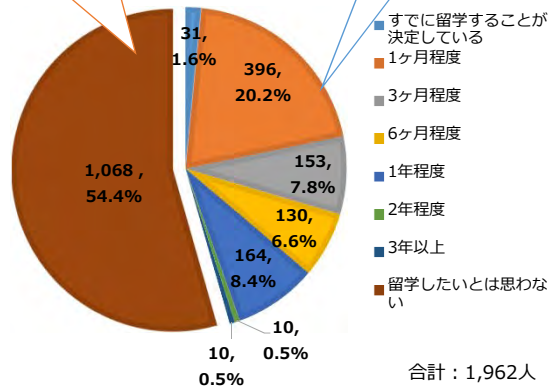
2013年～2017年で、高学年で「在学中に、留学したいと思う」学生の割合が減少傾向にある。

5

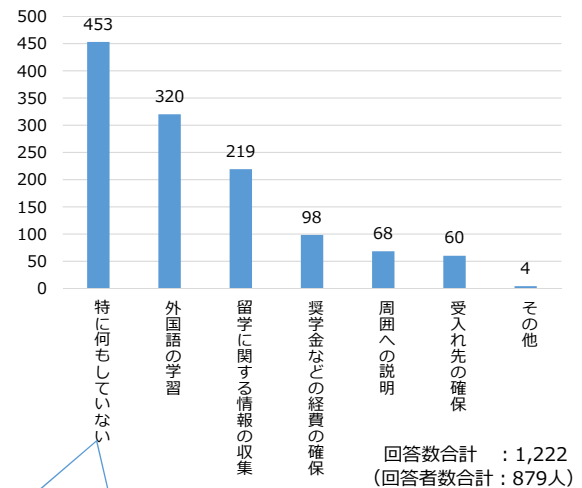
出所：平成25・27・29年度東北大学学生生活調査のデータを基に作成

学部生の在学中の留学希望

「留学したいと思わない」の回答が54.4%。



留学希望者の留学準備の程度



留学を希望してはいるものの52%は何もしていない。

出所：平成29年度（第12回）東北大学学生生活調査基礎集計表のデータを基に作成

6

東北大学の海外留学プログラム

留学分類	海外留学プログラム			
短期海外研修 (学部学生主対象)	入学前海外研修	SAP (Study Abroad Program)	FL (Faculty-led Program)	海外体験プログラム
	- 海外研修期間：2週間 - AO入試Ⅱ期等の入学予定者を対象としたプログラム	- 海外研修期間：3～5週間 - 大学間協定校での英語学習・文化社会体験プログラム - 海外研修（基礎）・2単位	- 海外研修期間：2週間 - 本学教員引率によるテーマ別学習プログラム - 海外研修（展開2）・2単位	- 海外研修期間：（通常）1～8週間 - 大学間協定校又は本学が加盟するコンソーシアムが実施する短期プログラム - 海外研修（展開1）・1単位、または海外研修（展開2）・2単位
交換留学 (学部学生・大学院生対象)	大学間学術交流協定に基づく交換留学プログラム			
大学院生留学	COLABS (Cooperative Laboratory Study Program Outbound)	ダブルディグリー プログラム	上海交通大学 Fostering of Global Human Resources プログラム	UCB大学院生 プログラム
	- 自然科学系研究科の大学院生が対象 - 研究留学 - 留学期間による3タイプのプログラム セメスター型：1学期から1年間（最短3ヶ月） 集中型：1ヶ月以上3ヶ月未満 ワークショップ型：10日以上1ヶ月未満	- 自然科学系研究科修士課程進学予定者が対象 - 二つの修士レベルの学位取得プログラム - フランス、スウェーデン、中国の提携校へ1年半程度留学	- 全研究科の大学院生が対象 - 上海交通大学への交換留学または学位取得留学 - 留学期間は交換留学は1～2学期、学位留学は2～3年	- 全研究科の大学院生が対象 - カリフォルニア大学バークレー校での学習・研究留学 - 留学期間：1学期～1年間

※この他に、学部・研究科独自の海外留学プログラムがある。

7

2019年度の研修予定先



SAP: 8ヶ国 15プログラム **FL: 7ヶ国 8プログラム**

研修先は各国トップレベルの大学

8

SAPのカリキュラム

9

SAPの学習目標とカリキュラム構成

学習目標

1. 【外国語運用能力】自己の言語運用力について認識し、高めていく方法について考える。
2. 【異文化適応力】異文化体験により、異文化への理解や寛容性と共に、自文化の理解を深める。
3. 【行動力】未知のことに挑戦し、積極的に行動する力を養う。

カリキュラム構成

事前研修：4回

現地研修：3～5週間

事後研修：2回

10

現地研修プログラムの開発

- 海外協定校から研修先を選定
- SAPの学習成果目標に適したプログラムの開発
 - 研修先の特色及び教育資源を最大限に活用
 - 事前・事後研修と現地研修の学習時間の合計が90時間以上
- プログラム開発はカリキュラム内容以外に、確認すべき項目が多数有
 - プログラムの契約条件（費用、契約に関する書類、修了証明書の発行等）
 - 生活条件（宿舍のタイプ、食事提供の有無、ネット環境、周囲の環境等）
 - 危機管理体制（研修先の危機管理体制、利用可能な医療機関）

プログラムによって学習プロセスが異なるので、学習目標の共有が重要！

「SAP新規開発テンプレート」で確認！

11

事前・事後研修の目的・目標・学習活動

【目的】参加学生が海外での研修に積極的に関わり、学習目標を達成するために必要なコンピテンシー（姿勢、スキル、能力）の育成

事前研修：4回	
目標	学習活動
短期海外研修の目的意識の醸成	「学びシート」による3つの能力の分析と海外研修の目標と目標達成のための計画の設定
文化背景の異なる人との交流の心構えの醸成	- 現地情報調査 - 英語での自文化プレゼンテーション
海外生活における危機管理意識の醸成	- 海外危機管理ワークシートの課題 - 海外危機管理セミナー - メディカルレポート
+ 参加学生間のチームビルディングと東北大学の学生として留学するという心構え	

事後研修：2回	
目標	学習活動
研修経験及び成果の言語化	「学びシート」による学生個人の研修経験と成果の分析及びグループとしての研修成果のまとめ
コミュニケーション力の向上	英語による研修成果のグループプレゼンテーション（公開報告会）

限られたマンパワーで多数の学生の派遣を可能にするため事前・事後研修のコアカリキュラム及び教材を担当教員で共同開発

12

短期海外研修プログラムデザインのポイント

1. 学習目標の明確化と具体化
 - 学習目標を明確にし、短期海外研修プログラム担当教員で共有するだけでなく、プログラム開発のパートナーである協定校の担当者とも共有する。
 - プログラムの学習目標を学生の留学目標として具体化する。
2. 事前研修におけるコアカリキュラムの開発
 - 事前研修の主要目的を明確にしたうえで、コアカリキュラムを開発する。
 - SAPの事前研修の主要目的：1)短期海外研修の目的意識、2)文化背景の異なる人との交流の心構え、3)海外生活における危機管理意識、4)参加学生間のチームビルディングと東北大学の学生として留学するという心構え、の醸成
3. 事後研修における学習成果の共有
 - 学習成果を振り返るフォーマットを提供する。
 - 学習成果報告を聞いてくれる聴衆を準備する。

13

SAPの学習成果

14

SAP学習成果指標： 外国語運用能力・異文化適応力・行動力

1—全くできない、2—あまりできない、3—まあまあできる、4—よくできる、5—非常によくできる

外国語運用能力	外国語コミュニケーション力	外国語を使って、初対面の人とも意見や情報のやり取りを行うことができる	異文化適応力	異文化理解	自分が滞在している国の人の文化ややり方を尊重して、必要に応じて自分も合わせられる
	ライティング力1	外国語で簡単な紹介文を書くことができる		自文化理解1	自分の国の文化のよいところ、よくないところを理解できる
	ライティング力2	外国語でレポートや小論文を書くことができる		自文化理解2	自国の歴史や文化、社会などについて具体的に伝えるための十分な知識を持ち、それを具体的に伝えられる
	リーディング力1	外国語で適切な情報を収集できる		多様性の受容	言語、文化、国籍、人種、性別、宗教による多様な価値観があることを認識し、自分との違いを受け止められる
	リーディング力2	アカデミックな書物や論文を読むことができる		倫理観・規律性	社会や集団のルールがあいまいな状況でも自分の良心と判断に従って適切な行動をとることができる
	状況把握力	自分にとってあまり馴染みのない環境や状況に身を置いても、外国語を使って人に質問するなどして何が起きているかを理解できる		チャレンジ精神	新しいことに挑戦する意欲と行動力がある（例）自分から外国語で話しかけたり、質問したりすることができる
	傾聴力1	相手の意図することを理解するために、適切な質問をするなどして話の筋を組み立てながら聞くことができる		積極性1	言語や文化が異なっても、誰とでも積極的に関わることができる
	傾聴力2	相手の話す内容がわからないときには、自分が理解できるように、相手に聞き返すことができる		積極性2	自分から外国語で話しかけたり、質問したりすることができる
	伝達力	外国語での会話において、適切な語彙や表現方法が思いつかないときは、別の言い回しやジェスチャーなどを使って、伝えたいことを表現する		問題解決力1	直面した問題を解決するために、他の人に相談できる
	説明力	話す相手を考え、情報の量や伝達方法を調整しながら、自分の意見や考えを分かりやすく外国語で伝えられる		問題解決力2	直面した問題に取り組み、代替案を探せられる
外国語運用能力	まとめる力	様々な意見が出される中で、一方的に否定することなく、みんなが納得できるようにまとめられる	行動力	柔軟性1	自分の失敗に対してどのように対処すれば良いか考えられる
	プレゼンテーション力	外国語で、相手にとって分かりやすい、説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる		柔軟性2	困難な状況や不慣れな環境でもうまく対応できる
	関係構築力	文化背景の異なる人との対話に興味を持ち、相手を尊重する心をもって、協働的な関係性を築けることができる		情報収集力1	自分が必要とする情報を様々な方法で収集することができる
				情報収集力2	課題解決のために、適切な情報を選択し活用できる

15

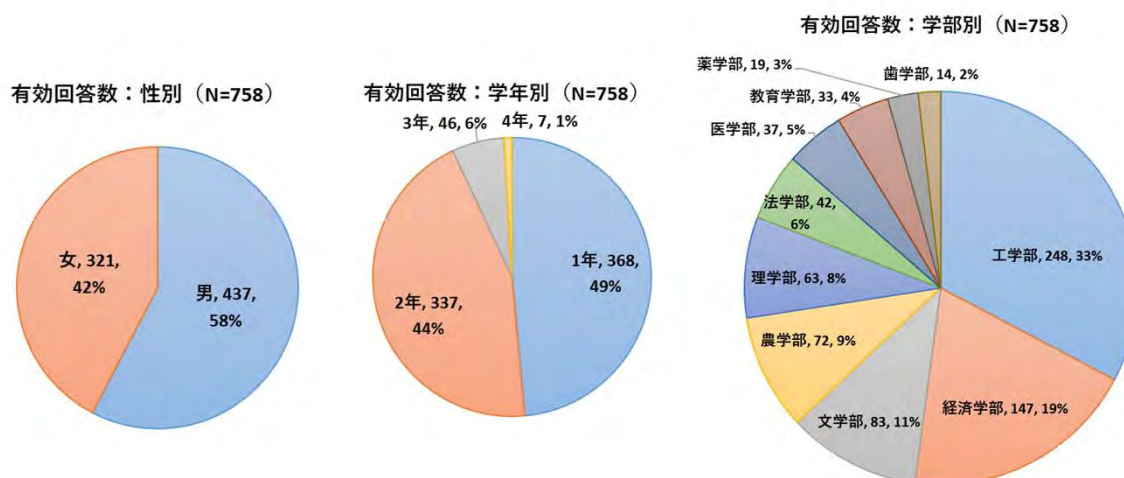
SAPプログラム：種類と実施時期

渡航先類別			実施時期							
渡航先大学プログラム	渡航先の国	渡航地域	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
			夏	春	夏	春	夏	春	夏	春
ベトナム貿易大学	ベトナム	アジア	○		○		○		○	
インドネシア大学	インドネシア	アジア		○	○	○		○		○
マラヤ大学	マレーシア	アジア					○		○	
ニューサウスウェールズ大学	オーストラリア	オセアニア		○	○	○	○	○	○	○
オークランド大学	ニュージーランド	オセアニア			○		○	○	○	○
カリフォルニア大学リバーサイド校	アメリカ	北米	○	○	○	○	○	○	○	○
ウォータールー大学	カナダ	北米					○		○	○
ハワイ大学マノア校	アメリカ（ハワイ）	北米	○		○		○		○	
サイモンフレーザー大学	カナダ	北米		○		○		○		○
カリフォルニア大学サンディエゴ校	アメリカ	北米		○		○		○		○
ニューヨーク州立大学オールバニー校	アメリカ	北米								○
シェフィールド大学	イギリス	ヨーロッパ		○		○		○		○
ヨーク大学	イギリス	ヨーロッパ		○		○		○		○

16

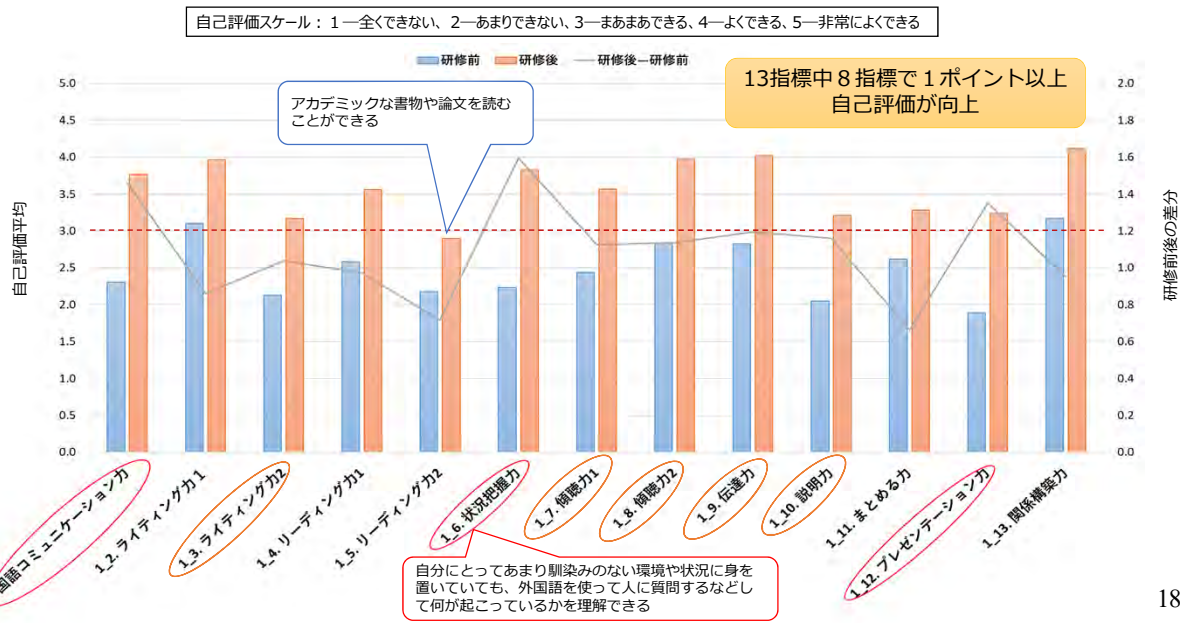
SAP前後の自己評価：回答者属性

2014年度～2017年度に実施したプログラム参加者の自己評価データを分析



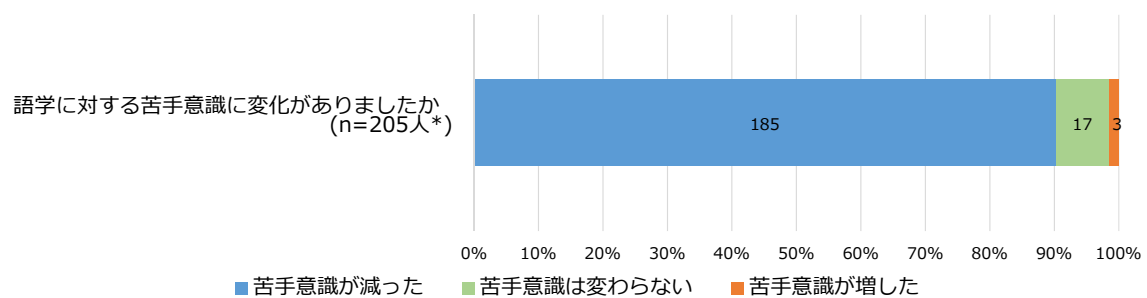
17

SAP前後での比較：外国語運用能力（13指標）の自己評価（n=758）



18

英語に対する苦手意識の変化



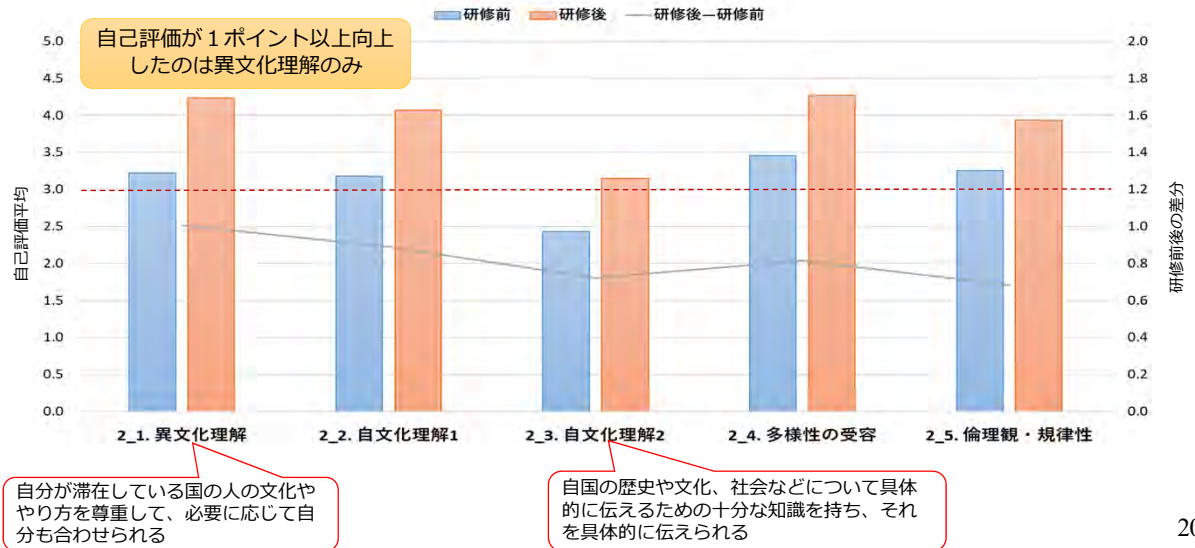
*合計数に加え、「もともと苦手意識はなかった」と回答した学生が24名いた。

出所：東北大学グローバルラーニングセンター・留学生課「2017年度SAP研修後アンケート集計結果」のデータを基に作成

19

SAP前後での比較：異文化適応力（5指標）の自己評価の平均（n=758）

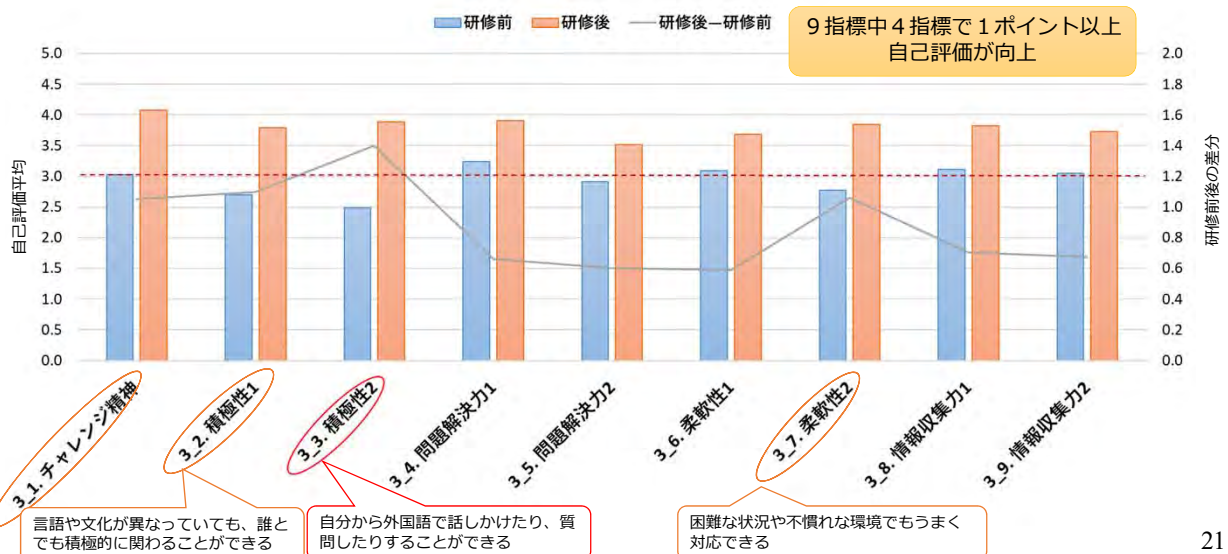
自己評価スケール：1—全くできない、2—あまりできない、3—まあまあできる、4—よくできる、5—非常によくできる



20

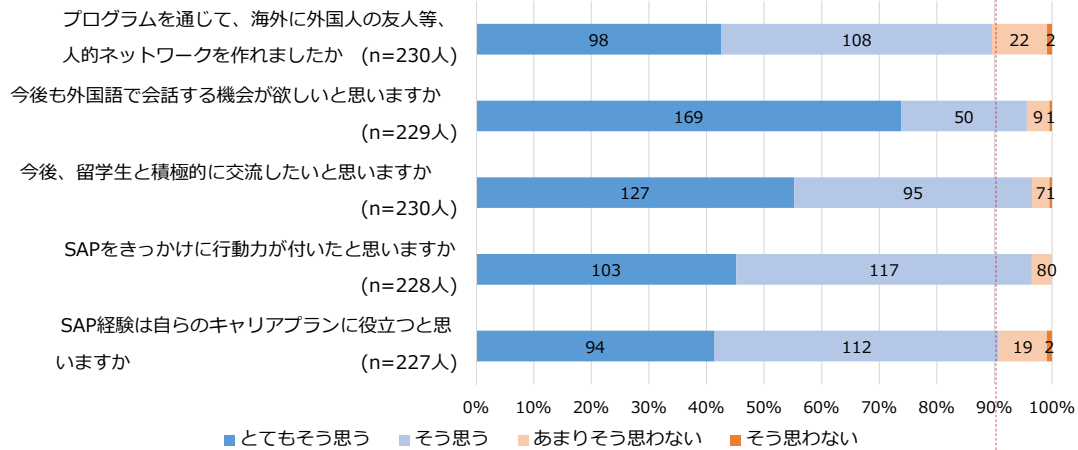
SAP前後での比較：行動力（9指標）の自己評価の平均（n=758）

自己評価スケール：1—全くできない、2—あまりできない、3—まあまあできる、4—よくできる、5—非常によくできる



21

SAPのインパクト



出所：東北大学グローバルラーニングセンター・留学生課「2017年度SAP研修後アンケート集計結果」のデータを基に作成

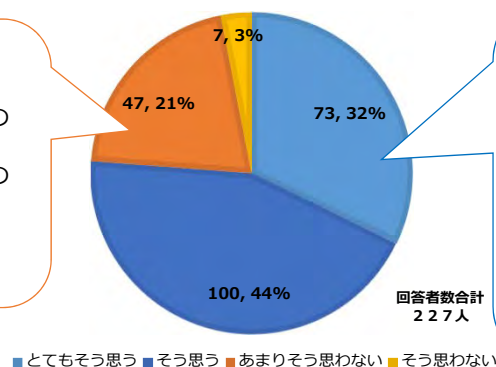
22

SAPのインパクト

今後の留学プログラムへの参加意欲が高まったと思いますか

回答の理由

- ・ 経済的・時間的コストの問題
- ・ 日本での専門的な学びの優先
- ・ 今回の留学で満足
- ・ 長期留学への不安



参加したいプログラム

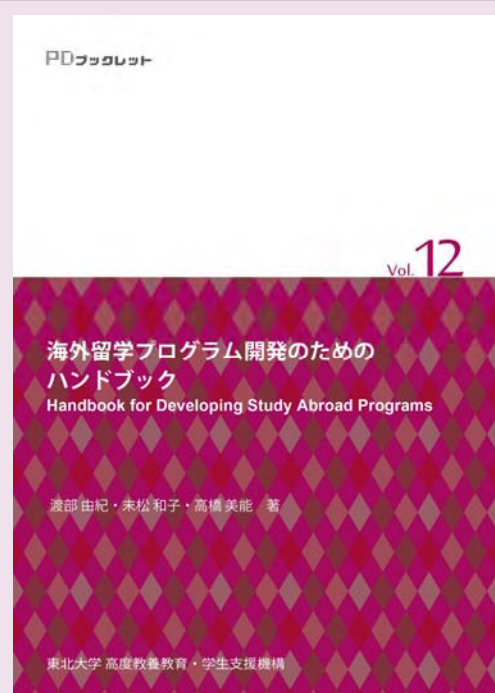
- ・ 交換留学プログラム (5割程度)
- ・ 短期留学プログラム (3割程度)
- ・ 海外での大学院進学 (含、ダブルディグリー・プログラム) (数名)

出所：東北大学グローバルラーニングセンター・留学生課「2017年度SAP研修後アンケート集計結果」のデータを基に作成

23

【3月下旬発行予定】
PDブックレット Vol.12
『海外留学プログラム開発
のためのハンドブック
Handbook for Developing
Study Abroad Programs』

以下のサイトよりダウンロードが可能になります。
<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/report>



5. 「国際混住寮ユニバーシティ・ハウスでの
グローバル人材育成の取組み」

東北大学総長特別補佐（学生支援担当）
菅原 俊二



第13回東北大学全学教育FD

「国際混住寮 ユニバーシティ・ハウスでの
グローバル人材育成の取り組み」

平成31年3月8日

総長特別補佐(学生支援担当)
歯学研究科・歯学部 菅原 俊二

1

TOHOKU
UNIVERSITY

学生寄宿舍の用語説明

○学生寄宿舍

ユニバーシティ・ハウス(UH)及び学寮の総称

○ユニバーシティ・ハウス

国際感覚の研鑽等を目的とした**教育施設**

○学寮

厚生施設の側面を持つ**教育施設**

明善寮、松風寮、霽風寮、以文寮、日就寮、
如春寮



UH三条

2

各UH概要一覧表(2019.4月現在)

項目／寄宿舍	UH三条		UH三条Ⅱ	UH三条Ⅲ	UH青葉山
建築年度	平成18年度		平成25年度	平成23年度	平成30年度
定員 (日本人:留学生)	416名 (286:130)		216名 (81:135)	176名 (88:88)	752名 (376:376)
ユニット比率 (日本人:留学生)	5:3		3:5	4:4	4:4
寄宿料(月額)	Aタイプ	Bタイプ	22,000円	22,000円	28,000円
	21,600円	22,000円			
共益費(月額)	Aタイプ	Bタイプ	2,500円	1,500円	1,500円
	2,500円	3,100円			

※Aタイプ:1ユニットあたりトイレ、シャワールーム、洗面台を完備(UH三条Ⅱ及びⅢは、Aタイプ)

※Bタイプ:居室にトイレ、シャワー室、洗面台を完備

3

UH青葉山について1

1. 場所

青葉山新キャンパス構内
青葉山駅→9分、農学部→5分



2. 入居定員

752戸(8名×94ユニット:U) 東北地方最大級!

日本人:留学生=376名:376名

男子学生440名(55U)+女子学生312名(39U)

3. 建物構成

1号棟(6階)、2～6号棟(7階)、インタラクション棟

4

UH青葉山について2

4. 交流スペース ～様々な交流アクティビティ～

(1) インタラクション棟(400㎡以上)

多目的ラウンジ、研修室、スマートインフィル(会議室)

(2) セントラルパーク、屋外交流デッキ:3棟

Wi-Fi利用、BBQパーティー可能

(3) 各ユニット オープンリビング



(屋外交流デッキ)

5. 各種レンタルサービス等

インターネット、ミニコンビニ、コピーサービス、寝具、食器、家具・家電、ケータリング(弁当)

5

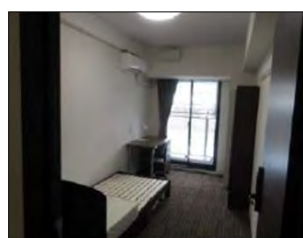
UH青葉山写真



建物外観



セントラルパーク



居室



オープンリビング

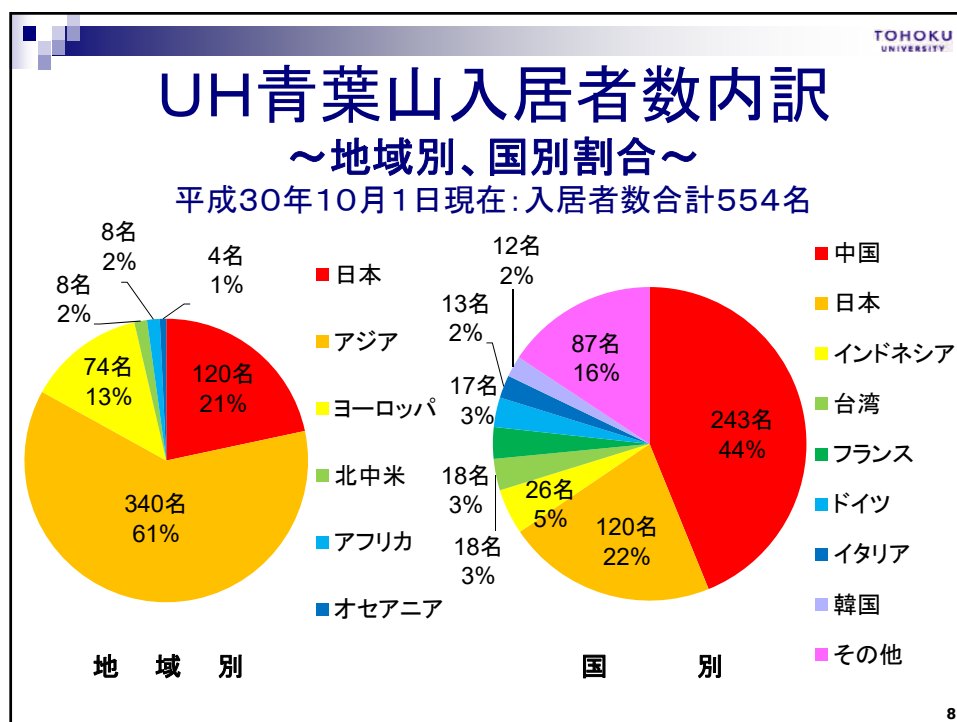
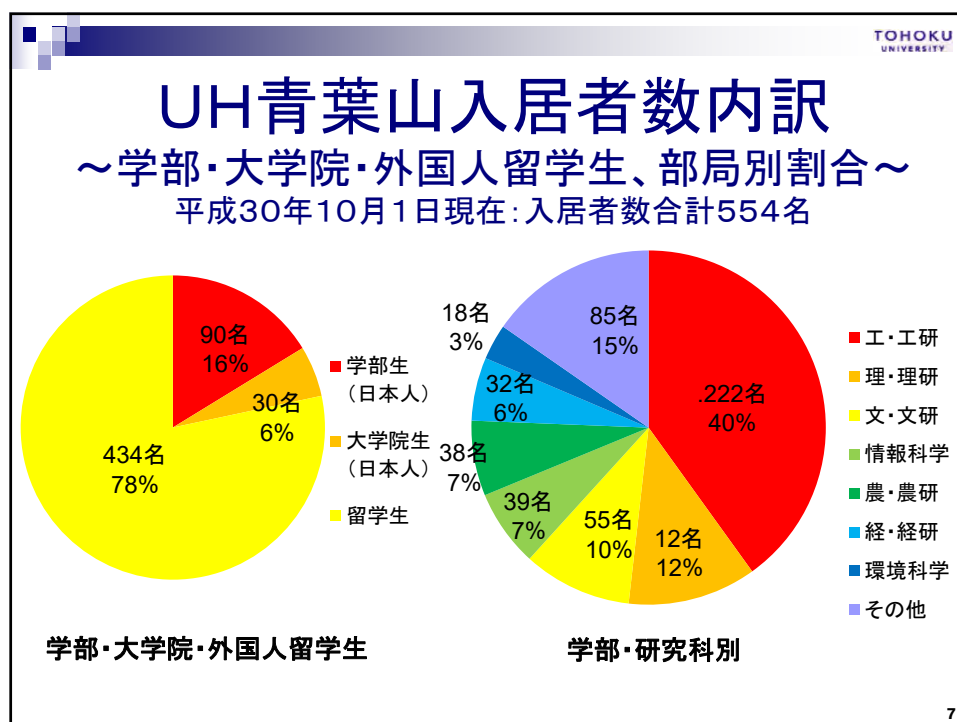


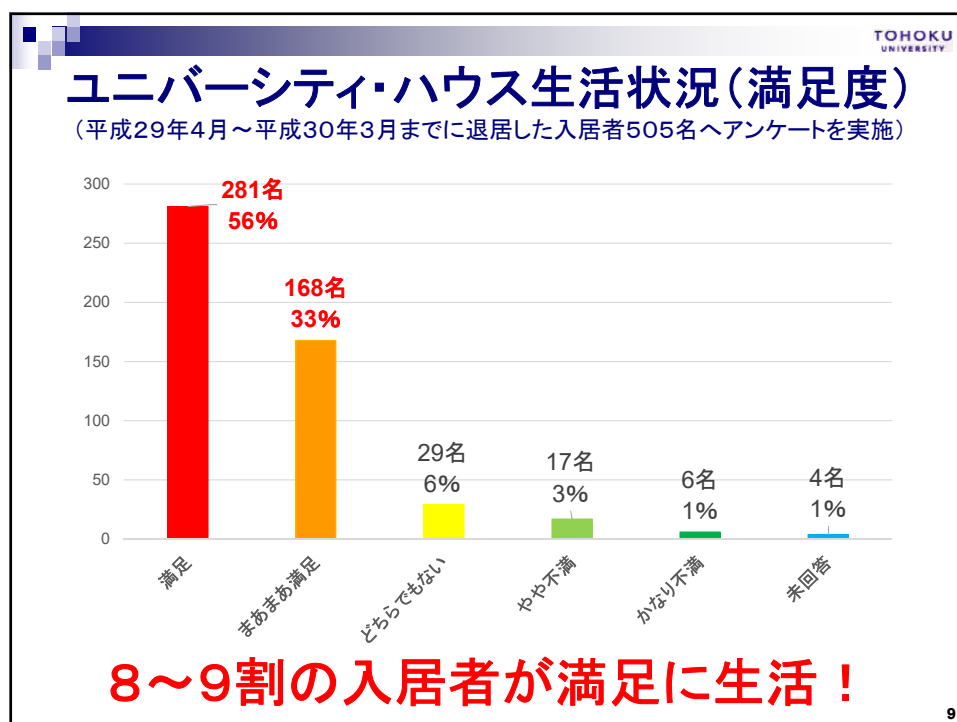
多目的ラウンジ



研修室

6





TOHOKU
UNIVERSITY

生活状況の満足度理由

(平成29年4月～平成30年3月までに退居した入居者505名へアンケートを実施)

1. **日本人学生や留学生、他学部・研究科の学生と気軽に交流**ができ、**共同生活が楽しかったため。**
2. **新しい友人を作ることができたため。**
3. アドバイザー主催の**交流イベントが楽しかったため。**
4. **家賃が安く、管理も行き届いており、快適な生活が送れたため。**
5. **サービス、設備が良かったため。**



10

ユニバーシティ・ハウス検討経緯1

○平成11年5月 学寮の在り方検討委員会

「ユニバーシティハウス構想」

①国内外の研究者が
利用できる施設

②国際会議を含む
研究集会の場

③学際化・国際化をリード
できる人材育成の場

研究・教育交流宿泊施設
ユニバーシティハウス

「高度の知的交流の機会」
「質の高い生活環境」



本学の研究者・大学院生・
学部学生・留学生

11

ユニバーシティ・ハウス検討経緯2

○8人制ユニット誕生

- ・日本人学生と外国人留学生の混住
- ・2の倍数→管理が容易
- ・多くの外国人留学生を入居
- ・4人又は6人ユニット 「1:3」、「2:2」、「2:4」、「3:3」
→日本人学生及び外国人留学生それぞれの委縮
- ・文部省概算要求 ユニバーシティ・ハウス三条採択
入居定員416名(※)採択 日本人5人:留学生3人



※日本人学生寮「昭和舎48名」+「有朋寮238名」+外国人留学生
「H13当時:865名半分の約430名－国際交流会館入居者300名＝
130名」＝UH三条416名

12

ユニバーシティ・ハウス検討経緯3

○ユニバーシティ・ハウス名称

- ・米国寮の名称「ハウス」→「ユニバーシティ・ハウス」

○UHアドバイザー制度

- ・教員1人が何人かの学生を指導する体制

事例: ケンブリッジ大学「スーパーバイザー」



教官のマンパワー不足

解消事例: ハーバード大学「コース・アシスタント

による学生活用」→「UHアドバイザー」

13

ハウスコンセプトの紹介

1. 国際感覚の研鑽
2. 協調性・社交性の涵養
3. 安心・安全な生活環境
4. 高品質の生活環境



14

ハウスコンセプト達成に向けた 入居者へのアプローチ

1. 入居選考 ～入居希望理由書の審査～

テーマ:「①入居希望理由」、「②UHに期待すること」
「③その期待を実現するためにどのような
学生生活を送りたいか」

2. 入居開始時 ～大学からのメッセージ挨拶～

3. 入居中 ～アドバイザー交流イベント等～

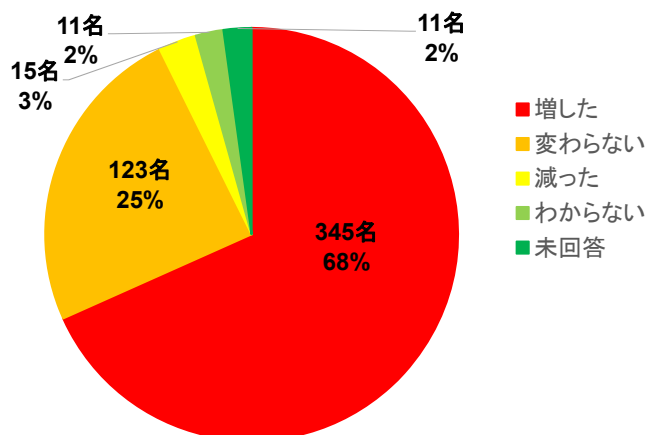
4. UHブランド(グローバル人材育成所)の構築

UHアドバイザー支援、各種PR、生活環境改善

15

異文化理解に対する興味の変化

(平成29年4月～平成30年3月までに退居した入居者505名へアンケートを実施)



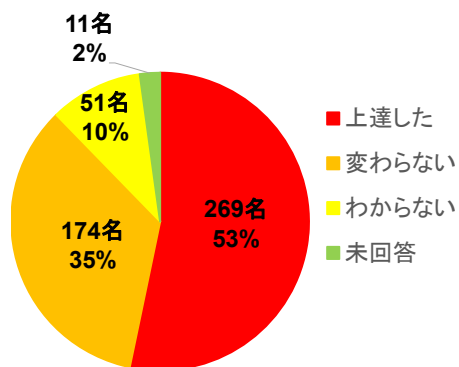
約7割の入居者が「国際感覚の研鑽」のコンセプトを達成！

16

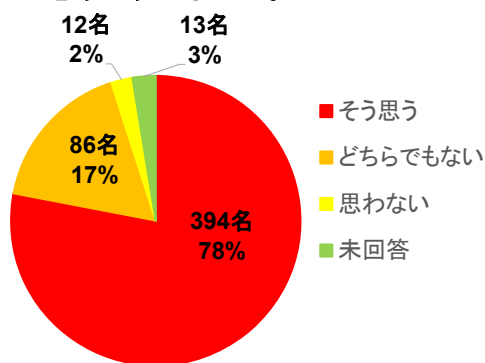
コミュニケーション(英語・日本語)の変化

(平成29年4月～平成30年3月までに退居した入居者505名へアンケートを実施)

○英語(日本語)が上達した。



○英語(日本語)を上達したいと思うようになった。

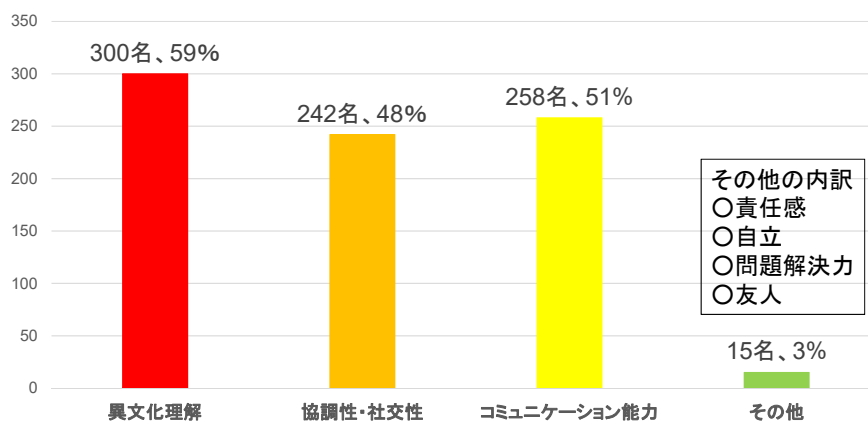


多くの入居者がコミュニケーション能力向上、語学意識の変化有！

17

ユニバーシティ・ハウスの生活が 影響を与えた点、成長させた点(複数回答有)

(平成29年4月～平成30年3月までに退居した入居者505名へアンケートを実施)



大半の入居者が「国際感覚の研鑽」、「協調性・社交性の涵養」のコンセプトを達成！

18

主なUHアドバイザーの役割

1. 生活上のアドバイス
→キャンパスライフ、UHの集団生活、仙台市街等
2. 入居者間交流の促進、人間関係の構築
3. 入居者間交流イベントの企画・実施
→ウェルカムパーティー、ユニットパーティー
4. ユニット内の快適な生活環境を構築
→生活ルールの構築、話し合い、協力し合う体制づくり
5. 大学主催の行事出席
→アドバイザーミーティング
総合防災訓練等
オープンキャンパス



19

主な入居者間交流イベント

1. UHアドバイザー主催

4月、10月 ウェルカムパーティー

5月～ 2月 日帰り旅行、バーベキュー、流しそうめん大会、芋煮会、新春書初め大会、スキー旅行(1泊)

2. 各ユニット主催

映画鑑賞会、料理パーティー、ゲーム、スポーツ大会



20

UHアドバイザー主催イベント写真



ウェルカムパーティー1



ウェルカムパーティー2



日帰り旅行



スキー旅行

21

UHアドバイザーへの支援

1. アドバイザー教育の実施

GLC: 異文化理解、コミュニケーション

学生支援課: アドバイザー制度全般

2. アドバイザーミーティング、オープンキャンパス、総合防災訓練への協力

→UH管理運営に関与の理解、モチベーションアップ

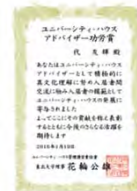
3. アドバイザー活動報告書の活動評価

4. UHアドバイザー功労賞授与

→インセンティブによる卒業(修了)まで入居許可

5. 積極的なアプローチ、コミュニケーション、相談対応

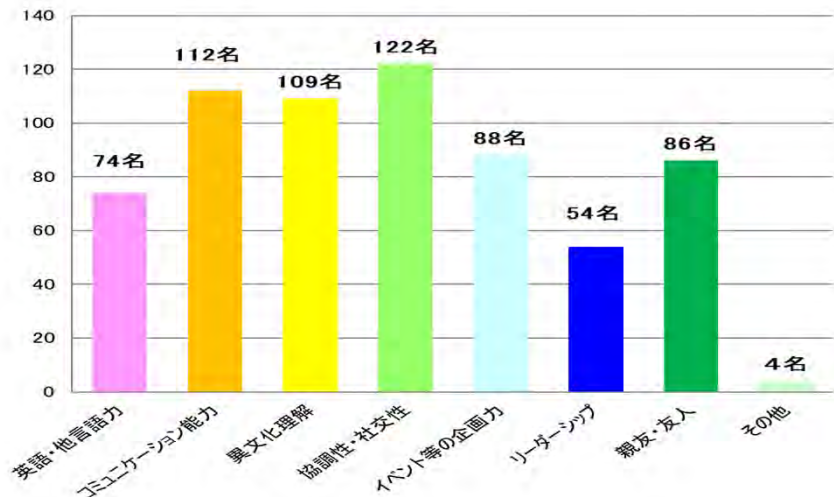
→人間形成及び成長を視野に含めた対応



22

UHアドバイザー活動が 影響を与えた点、成長させた点(複数回答有)

(平成27～30年度UHアドバイザー169名へアンケートを実施)



今後の予定(課題)

1. 東北大学ビジョン2030の実現

「9. オープンでボーダレスなキャンパスにおける国際共修の展開」

→UHを活用した教育プログラムの展開

H28「UHにおける学生育成のあり方WG」

H29「UH青葉山入居者を対象とした教育効果検討WG」

H31「講義内容等の実施方法を検討するプログラム委員会(仮称)を設置」

2. UH青葉山のアドバイザー活動定着

6. 第 13 回東北大学全学教育 FD アンケート結果

第13回東北大学全学教育FDアンケート

今後の全学教育FDを企画するうえで参考とさせていただきたく、アンケートにご協力
よろしくお願い致します。

回 答 者： 東北大学教員・非常勤講師・事務職員・その他 （いずれかを○で囲んでください）

*教員の方は、全学教育で担当されている科目名を記入してください。

科目名： _____

1 全学教育FDの趣旨を理解できましたか。

(1) できた (2) できなかった (3) どちらともいえない

※お答えになった理由や感想をお書き下さい。

--

2 グローバルリーダーの育成について、イメージやヒントは得られましたか。

(1) 得られた (2) 得られなかった (3) どちらともいえない

※お答えになった理由や感想をお書き下さい。

--

3 今回の全学教育FDの内容・運営等についてはいかがでしたか。

(1) よかった (2) よくなかった (3) どちらともいえない

※お答えになった理由や、今後取り上げて欲しい課題について具体的にお書き下さい。

--

4 その他、全学教育および大学教育全般について、ご意見があればお書きください。

--

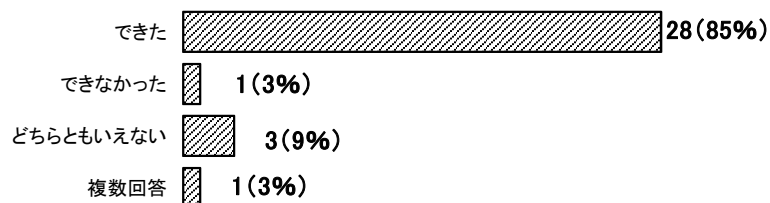
ご協力ありがとうございました。

全学教育FDアンケート結果

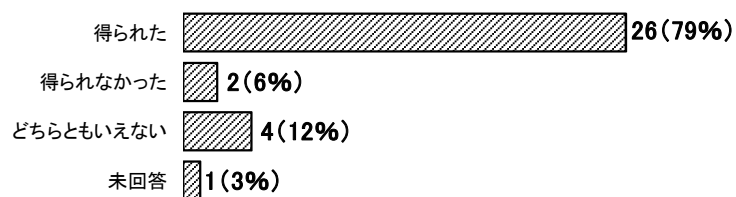
回答者数: 33名

内	東北大学教員	20名
	非常勤講師	8名
	事務職員	1名
	不明	4名

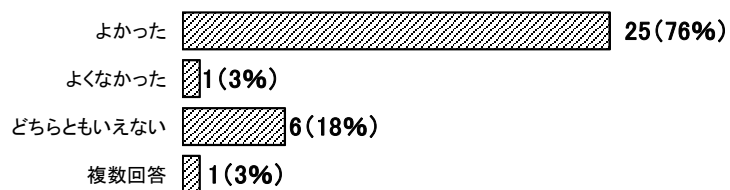
1 全学教育FDの趣旨を理解できましたか。



2 グローバルリーダーの育成について、イメージやヒントは得られましたか。



3 今回の全学教育FDの内容・運営等についてはいかがでしたか。



★アンケートの主な自由記述

1. 全学教育 FD の趣旨を理解できましたか。

(1) できた

- 今回はグローバルリーダーの育成に特化されていたため
- ※理念は理解出来る。
- 教職員のベクトル合わせのために、有益な催しだったと思います。
- △ ➤ 今回は TGL、そして Nitobe College を通じてグローバルリーダーの育成 vision がよく理解できた。

(2) できなかった

- 説明がよくわからないし、スライドも見づらいしで、よく理解できなかった。

(3) どちらともいえない

- 留学など高コストの教育法を少人数に与えるという全学的な教育方針なのでしょうか？
- あまりどちらともいえない、とは言いたくないですが..グローバルリーダ育成については理解できるものの、全学教育としての各科目や理念との関係はわからない。外に目を向けない。学生に対するものでなく積極的にとりくむ学生向けであるリーダー育成と教養教育との関係はわかりにくい。
- 非常勤講師の立場としては、こうした人材の育成が、授業目的、授業方法といった具体的な面と、どう結びつけていくかに関心があります。今日の FD の御発表は、そうした応用面での発表を少し充実させて頂きたかったと思います。

2. グローバルリーダーの育成について、イメージやヒントは得られましたか。

(1) 得られた

- 北大の取り組みが具体的に紹介されていた。東北大生のデータもプログラム開発の現状も参考になった。
- 具体的な情報が得られたため。
- TGL の重要性、意義は言うまでもありません。一方で、“内の充実”の上にこそ“外への展開、応用”でなければならないと考えます。（英語のマスターには、母国語（文化）の再認識が必須です。）
- ・内容自体は参考になりました。
・配布資料の文字が細かすぎて読みとれないものがあつたのが残念です。
- 教育目標としてのグローバルリーダー育成の理念や具体的手段は、理解できました。
- 今や各自の専門領域に立てこもって“刃を研ぐ”スタイルは、多くの学生にはフィットしない、ということなのだろうと思いました。一方で、アクティブな学生は何にでも手を出すだろうし、その中で何かを掴んでいくでしょうが、そうでない学生をどう取り込んで行くか、が課題かなと思います。
- 上記（前頁の△の付いた記述——編集者）にのべた如く、イメージもヒントも多く得られた。ただ、Nitobe College とすこし違い、TGL は認定証を得たことは、その後、どのように仕事、学問の発展につながるのか、実社会とのつながりが、少し見えなかった。
- 4名の報告が内容が具体的でたいへん良かったです。国内学生のグローバル化、とくに国際混在寮の取り組みはユニークですばらしいと思っています。

(2) 得られなかった

- 北大の育成イメージは理解できたが、本学の育成イメージは理解できなかった。
- グローバルリーダーとは、どのような人材を指すのか。教育の面で参考になることは多々あったが、リーダー育成にどのようにつながるのかはイメージしづらい。

(3) どちらともいえない

- ◎ ➤ グローバル化の前提として、「異質の他者」と主体的に交わることが求められると思います。授業を担当して4年ですが、年々、学生の交流範囲が狭くなっていると感じます。また face to face のコミュニケーションを忌避する傾向が強い、一種の「タコソボ化」が進んでいると危惧しています。最悪なのは「社会的弱者」の無視、排除につながることです。
- ・東北大学出進（原文のママ）のグローバルリーダーの状況が不明。
・欧米のリーダーのイメージが強いが、アジアでのリーダーについての視点が弱いような気がする。
・英語一辺倒であるが、中国語やハングル語は？

(4) 未回答

- グローバルリーダーとリーダーはどう違うのでしょうか？リーダー候補学生と他の本学の学生で必要なスキルは異なるのでしょうか？（ジェネリックスキルであれば、他の学生にも必要な気がします。）

3. 今回の全学教育FDの内容・運営等についてはいかがでしたか。

(1) よかった

- 内容に問題はなかった。しかし配付資料 (Power Point) の一部がハズキルーペ (笑) でも判読できそうにないのは、もし可能であれば、改善してほしい点であった。
- ただカメラのフラッシュが多く不快だった。
- UH の紹介が興味深かったです。
- 4 年間、授業を担当しましたが、4 年前と現在と、学生の気質等に変化が生じていると感じます。上記のように (前々頁の◎の付いた記述——編集者)、直接的コミュニケーションが苦手、あるいは回避する傾向が強まっている、そうした情報の交換などを通じ、共通認識を高めていただければと思います。
- ビデオ (原文のママ) 等の事例紹介がもう少しあってもよいと思う。
- 大学教育、教員として理解しておかねばならぬ内容でした。
- 大変お世話さまでした。
- 外国語を担当するものとして、TGL の現状、今後を把握していることは大切と感じた。
- 資料の文字が小さすぎて読めませんでした

(2) よくなかった

- 運営全体として、本気で取り組んでいるのか、アリバイづくりでやっているのかよくわからなかった。本気であれば、スライド、説明、資料の作成まで、もう少しがう形になると思う。

(3) どちらともいえない

- プログラムやプロジェクトレベルの話が多く、自分の授業実践にどう活用すれば良いのか…なやむ。将来、プロジェクトマネージャーになった時には役立つ気もする。
- ①写真撮りすぎ。フラッシュがある度に、影響されます。気が散るので、少しくらい抑えて頂きたいです。
②PPD の字が小さかったり、印刷されたレジュメの字がほとんど読めなかったりするので、読みやすい工夫をして欲しいです。
- スクリーンの文字が小さくよく見えなかった。印さつ物も文字がつぶれていてどちらもよめなくて残念。
- グローバルリーダーの育成にかたよっているので、現時点であまり関連がなかった。
- パワーポイントの行数は良く考えて欲しい。配布資料も小さいと内容はわからない。異文化・多文化理解を進める為に必要なことは、結局個人の積極性によるものか、と思われる。
- 北海道大学のプログラムを拝聴する事が、どれだけ意義があったのかには、少し疑問が残りました。

- 想定していた **FD** と異なっていた。

4. その他、全学教育および大学教育全般について、ご意見があればお書きください。

- 全学教育は非常に重要な教育で、教養の根幹をなすものなので、ぜひ大事に育てていただきたいと思います。
- ①“教養部世代”として、科目選択の自由度、多様性（自発、能動の精神）をもたせてもいいのでは～と感じます。
ex) 語学では、英語を中心に、仏語などを修得する姿勢（留学を含め）も重要です。
- ②2年次以降も文系、理系の学問的交流があれば面白いと思います。（医療系学部では特に文科系の素養、見識が重要なのです。）
- 初めてなので参考になりました。ありがとうございました。
- 成績評価に関する学生からの指摘（不平等との）があり、改善する必要があるのであれば、学務審からの明確な比率を提示するべきだと思います。
- ・ミニットペーパー記入不正が疑われる事例が増加していると感じます。integrityをどう高めていくか悩んでいます。
・履修者の出身地、出身校情報があると助かります（任意で聞いています）東北出身者が微減傾向のようで、東日本大震災や冬季スポーツなど、話の持っていく方が変わってくるので。
- 学習や研究に対して目的意識をどのようにつけさせれば良いのか。PBL、アクティブラーニング様々なところみはあるものの、どの程度学生に効果がみられるのか、検証をしたようなFDを望みます。（前に一度ありましたが最近の状況なども知りたい。）
- ・パワーポイントの資料が配布されていましたが、字や画面が小さすぎるものがありました。
・対象と目的を絞ったコンパクトなFDを希望します。
- 国際交流に関する仕事を本務でしていたことがあり、大変参考になりました。
- 現場にいと、TGLに参加する意欲的な学生と、そうでない学生の外国語の差（コミュニケーション能力、英語力）は年々、ひろがって大きくなっているように思う。

編集：東北大学教育・学生支援部教務課全学教育企画係

IEHE Report 81*

第13回東北大学全学教育FD ―報告書―

2019年（令和元年）10月 発行

東 北 大 学 学 務 審 議 会
東北大学高度教養教育・学生支援機構

〒980-8576 仙台市青葉区川内 41 TEL 022-795-7551

<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/>

*No.55 以前は、CAHE TOHOKU Report として刊行

